

令和5年度
第1回市政モニターアンケート

「認知症支援・介護予防に関する意識調査」

北九州市広報室広聴課

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
【北九州市の高齢化について】	
(1) 北九州市の高齢化について	2
【認知症について】	
(2) 認知症の人と接する機会	3
(3) 認知症の人について	4
(4) 若年性認知症の認知度	6
(5) 若年性認知症という言葉について	7
(6) 認知症に対するイメージ	8
(7) 認知症になった場合の暮らし	10
(8) 認知症に対する不安	12
(9) 認知症に関する相談窓口について	14
(10) 認知症サポーターについて	16
(11) 認知症サポーターの考えられる支援の内容について	18
(12) 認知症の理解促進に向けた広報の方法	30
【健康づくりや介護予防にいて】	
(13) フレイルについて	32
(14) 健康づくりやフレイル予防(介護予防)に関する情報について	33
(15) 健康づくり(フレイル予防を含む)の取り組みについて	35
(16) 健康づくりやフレイル予防(介護予防)に取り組んだきっかけ	37
(17) 市が行っているフレイル予防(介護予防)事業について	39
(18) 認知症支援・介護予防に関する意見	41
IV全体考察	49

I 調査の概要

調査対象者 市政モニター150人
 回答者数 143人(回収率95.3%)
 調査実施日 令和5年5月12日～令和5年5月26日
 実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査
 調査実施課 北九州市広報室広聴課 Tel582-2527
 調査依頼課 北九州市保健福祉局 認知症支援・介護予防センター
 Tel522-8765

II 市政モニターの構成

R5.5.12

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	150 (100.0%)	68 (45.3%)	82 (54.7%)	区 別			
10歳代	2 (1.3%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	門司区	16 (10.7%)	8 (5.3%)	8 (5.3%)
20歳代	18 (12.0%)	7 (4.7%)	11 (7.3%)	小倉北区	35 (23.3%)	15 (10.0%)	20 (13.3%)
30歳代	20 (13.3%)	10 (6.7%)	10 (6.7%)	小倉南区	26 (17.3%)	10 (6.7%)	16 (10.7%)
40歳代	24 (16.0%)	11 (7.3%)	13 (8.7%)	若松区	8 (5.3%)	1 (0.7%)	7 (4.7%)
50歳代	24 (16.0%)	11 (7.3%)	13 (8.7%)	八幡東区	11 (7.3%)	6 (4.0%)	5 (3.3%)
60歳代	22 (14.7%)	11 (7.3%)	11 (7.3%)	八幡西区	44 (29.3%)	23 (15.3%)	21 (14.0%)
70歳以上	40 (26.7%)	17 (11.3%)	23 (15.3%)	戸畑区	10 (6.7%)	5 (3.3%)	5 (3.3%)

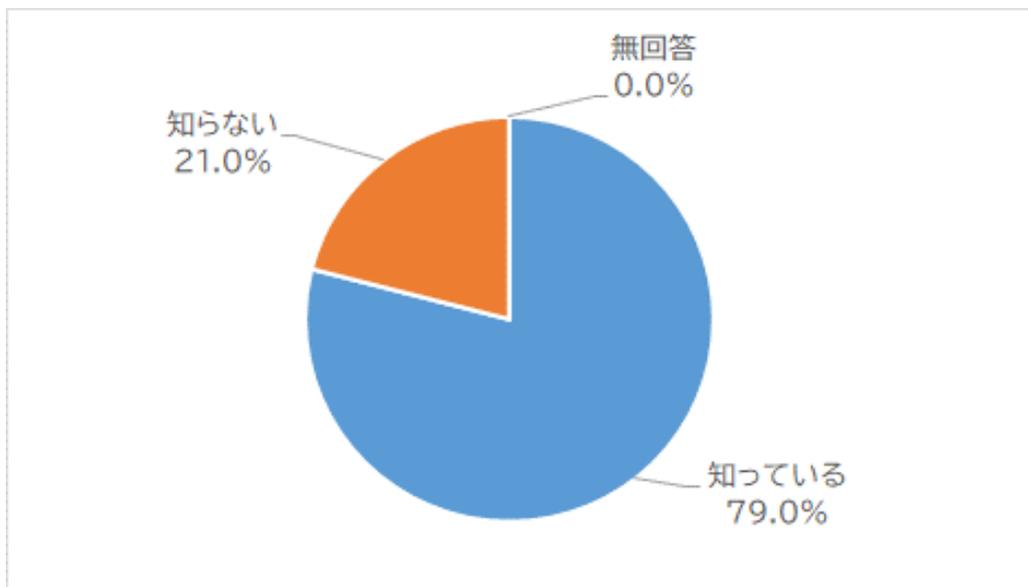
※モニター総数150名のうち郵送モニター25名、ネットモニター125名

※数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は、一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

北九州市の高齢化について

問1 本市は政令指定都市の中で最も高齢化率が高いということを知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		143人	79.0%	21.0%	0.0%
性別	男性	65人	78.5%	21.5%	0.0%
	女性	78人	79.5%	20.5%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	50.0%	50.0%	0.0%
	20歳代	17人	70.6%	29.4%	0.0%
	30歳代	19人	57.9%	42.1%	0.0%
	40歳代	22人	81.8%	18.2%	0.0%
	50歳代	23人	82.6%	17.4%	0.0%
	60歳代	21人	81.0%	19.0%	0.0%
	70歳以上	39人	89.7%	10.3%	0.0%
区別	門司区	16人	81.3%	18.8%	0.0%
	小倉北区	33人	87.9%	12.1%	0.0%
	小倉南区	25人	76.0%	24.0%	0.0%
	若松区	7人	71.4%	28.6%	0.0%
	八幡東区	11人	63.6%	36.4%	0.0%
	八幡西区	41人	75.6%	24.4%	0.0%
	戸畑区	10人	90.0%	10.0%	0.0%

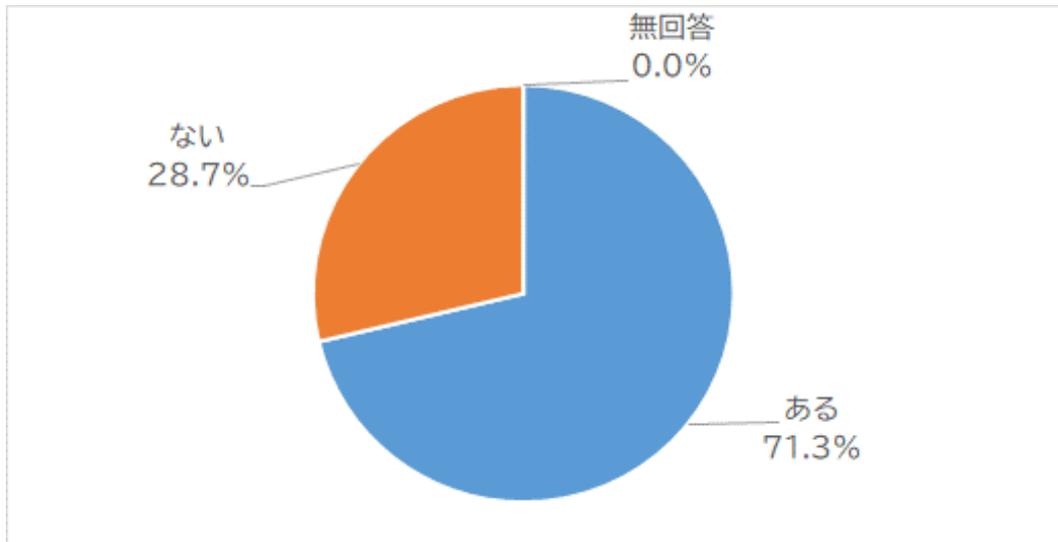
政令指定都市の中で、北九州市が最も高齢化率が高いことについて、「知っている」が79.0%、「知らない」が21.0%でした。

特に40歳代以上では、全ての年代で「知っている」が80%以上となり、認知度が高い状況です。

認知症について

(認知症の人と接する機会)

問2 あなたは今までに認知症の人と接したことがありますか。



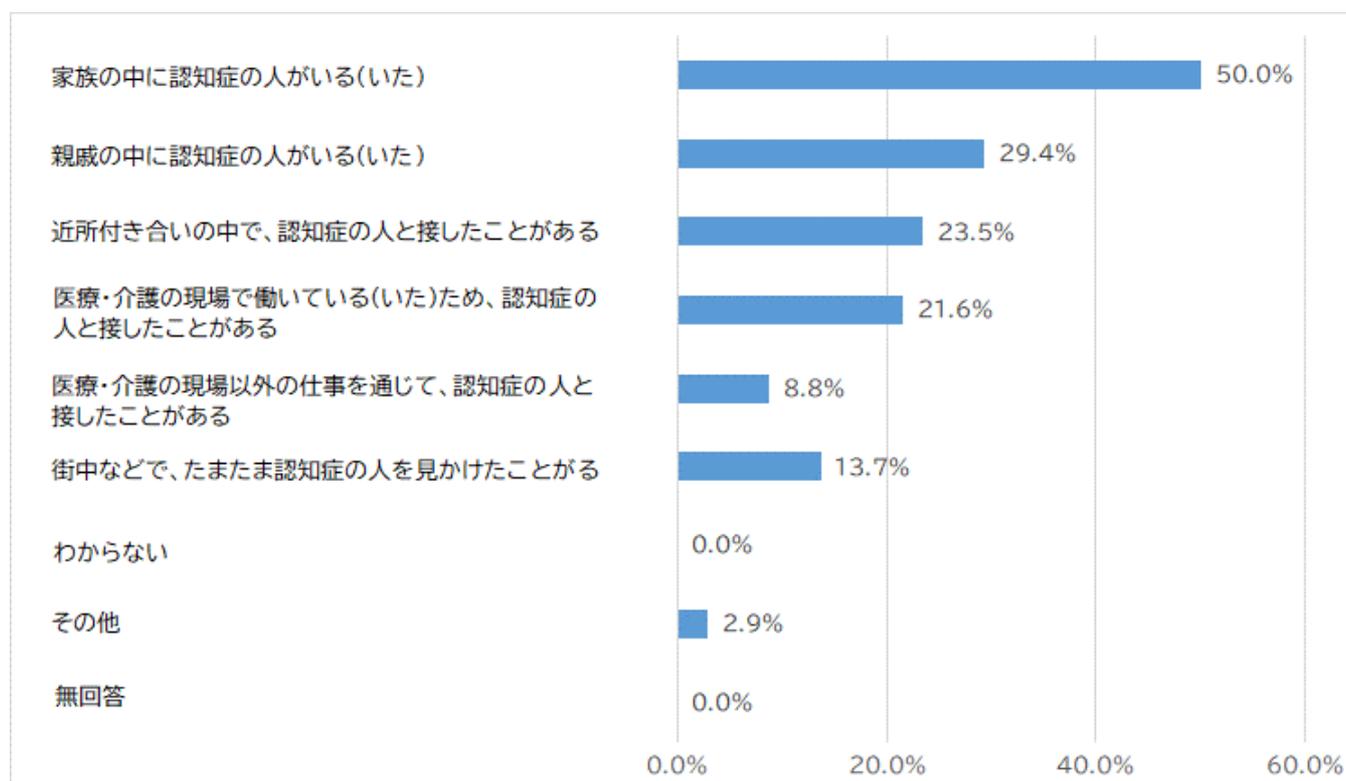
		回答者数	ある	ない	無回答
全体		143人	71.3%	28.7%	0.0%
性別	男性	65人	63.1%	36.9%	0.0%
	女性	78人	78.2%	21.8%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	50.0%	50.0%	0.0%
	20歳代	17人	47.1%	52.9%	0.0%
	30歳代	19人	57.9%	42.1%	0.0%
	40歳代	22人	72.7%	27.3%	0.0%
	50歳代	23人	73.9%	26.1%	0.0%
	60歳代	21人	76.2%	23.8%	0.0%
	70歳以上	39人	84.6%	15.4%	0.0%
区別	門司区	16人	87.5%	12.5%	0.0%
	小倉北区	33人	51.5%	48.5%	0.0%
	小倉南区	25人	72.0%	28.0%	0.0%
	若松区	7人	85.7%	14.3%	0.0%
	八幡東区	11人	90.9%	9.1%	0.0%
	八幡西区	41人	75.6%	24.4%	0.0%
	戸畑区	10人	60.0%	40.0%	0.0%

今までに認知症の人と接したことがあるかについて、「ある」が 71.3%、「ない」が 28.7%でした。特に 40 歳代以上で接した経験がある方が多いことが分かります。

また、接した経験がある方は、男性 63.1%、女性 78.2%と、女性の方が多くも分かります。

<問2で「ある」と回答された方にお尋ねします。>

問3 次の中から該当するものを選んでください。(複数回答可)



		回答者数	家族の中に認知症の人がいる(いた)	親戚の中に認知症の人がいる(いた)	近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある	医療・介護の現場で働いている(いた)ため、認知症の人と接したことがある	医療・介護の現場以外の仕事を通じて、認知症の人と接したことがある	街中などで、たまたま認知症の人を見かけたことがある
全体		102人	50.0%	29.4%	23.5%	21.6%	8.8%	13.7%
性別	男性	41人	53.7%	24.4%	24.4%	17.1%	4.9%	14.6%
	女性	61人	47.5%	32.8%	23.0%	24.6%	11.5%	13.1%
年齢別	10歳代	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	8人	12.5%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	12.5%
	30歳代	11人	54.5%	27.3%	27.3%	18.2%	9.1%	9.1%
	40歳代	16人	31.8%	22.7%	13.6%	31.8%	4.5%	0.0%
	50歳代	17人	47.1%	35.3%	23.5%	35.3%	11.8%	23.5%
	60歳代	16人	75.0%	25.0%	12.5%	18.8%	6.3%	12.5%
	70歳以上	33人	48.5%	24.2%	30.3%	6.1%	12.1%	18.2%
区別	門司区	14人	64.3%	28.6%	28.6%	21.4%	0.0%	21.4%
	小倉北区	17人	29.4%	23.5%	35.3%	17.6%	17.6%	23.5%
	小倉南区	18人	55.6%	27.8%	16.7%	38.9%	27.8%	11.1%
	若松区	6人	66.7%	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	40.0%	30.0%	10.0%	30.0%	10.0%	20.0%
	八幡西区	31人	54.8%	32.3%	19.4%	16.1%	0.0%	6.5%
	戸畑区	6人	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%

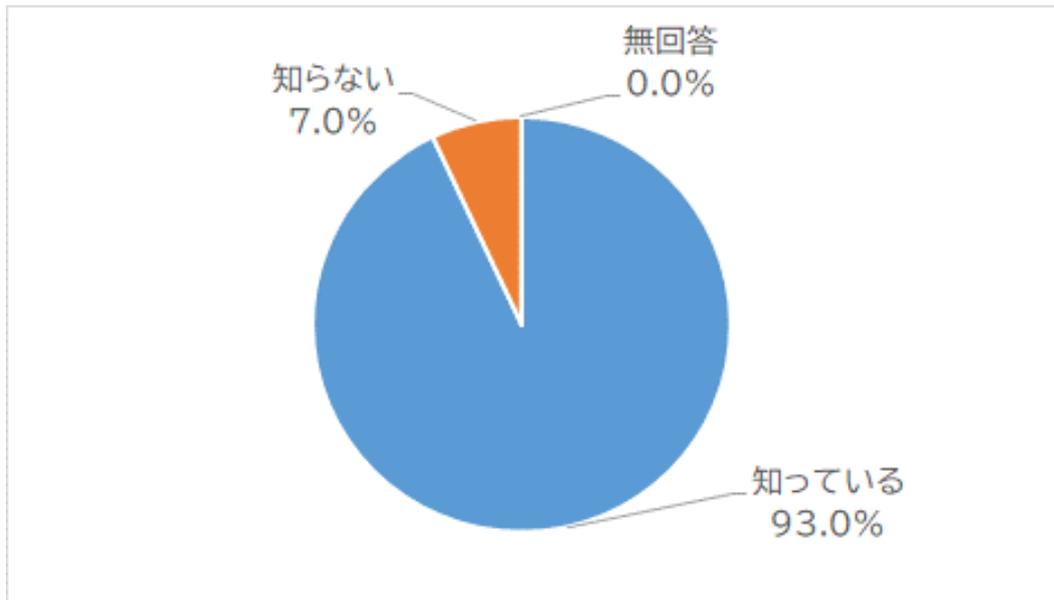
(次ページへ続く)

		回答者数	わからない	その他	無回答
全体		102人	0.0%	2.9%	0.0%
性別	男性	41人	0.0%	2.4%	0.0%
	女性	61人	0.0%	3.3%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	8人	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	0.0%	9.1%	0.0%
	40歳代	16人	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	17人	0.0%	5.9%	0.0%
	60歳代	16人	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	0.0%	3.0%	0.0%
区別	門司区	14人	0.0%	7.1%	0.0%
	小倉北区	17人	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	18人	0.0%	5.6%	0.0%
	若松区	6人	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	31人	0.0%	3.2%	0.0%
	戸畑区	6人	0.0%	0.0%	0.0%

認知症の人と接する機会について、「家族の中に認知症の人がいる(いた)」が最も多く50.0%、次いで「親戚の中に認知症の人がいる(いた)」が29.4%、「近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある」が23.5%という結果になりました。

(若年性認知症について)

問4 認知症は年齢に関係なく誰でもかかりうる病気であることを知っていますか。

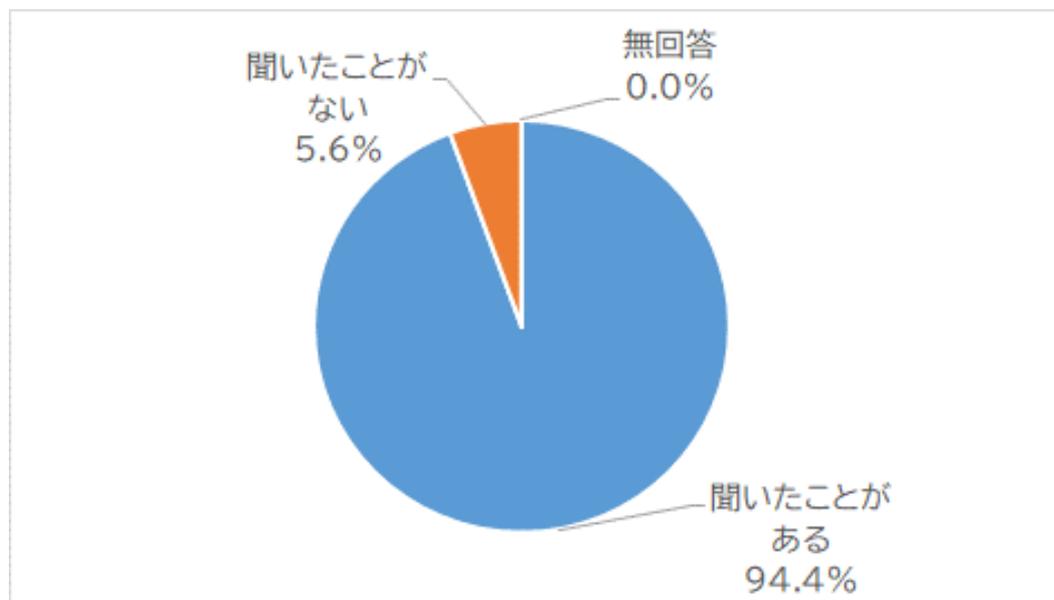


		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		143人	93.0%	7.0%	0.0%
性別	男性	65人	89.2%	10.8%	0.0%
	女性	78人	96.2%	3.8%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	100.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	70.6%	29.4%	0.0%
	30歳代	19人	78.9%	21.1%	0.0%
	40歳代	22人	100.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	100.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	95.2%	4.8%	0.0%
	70歳以上	39人	100.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	16人	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	33人	87.9%	12.1%	0.0%
	小倉南区	25人	96.0%	4.0%	0.0%
	若松区	7人	100.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11人	90.9%	9.1%	0.0%
	八幡西区	41人	90.2%	9.8%	0.0%
	戸畑区	10人	100.0%	0.0%	0.0%

認知症は年齢に関係なく誰でもかかりうる病気であることについて、「知っている」が93.0%、「知らない」が7.0%でした。

特に20歳代と30歳代以外は、「知っている」が95%以上と非常に高い結果となりました。

問5 64歳以下で発症する認知症を「若年性認知症」と呼びますが、若年性認知症という言葉聞いたことがありますか。



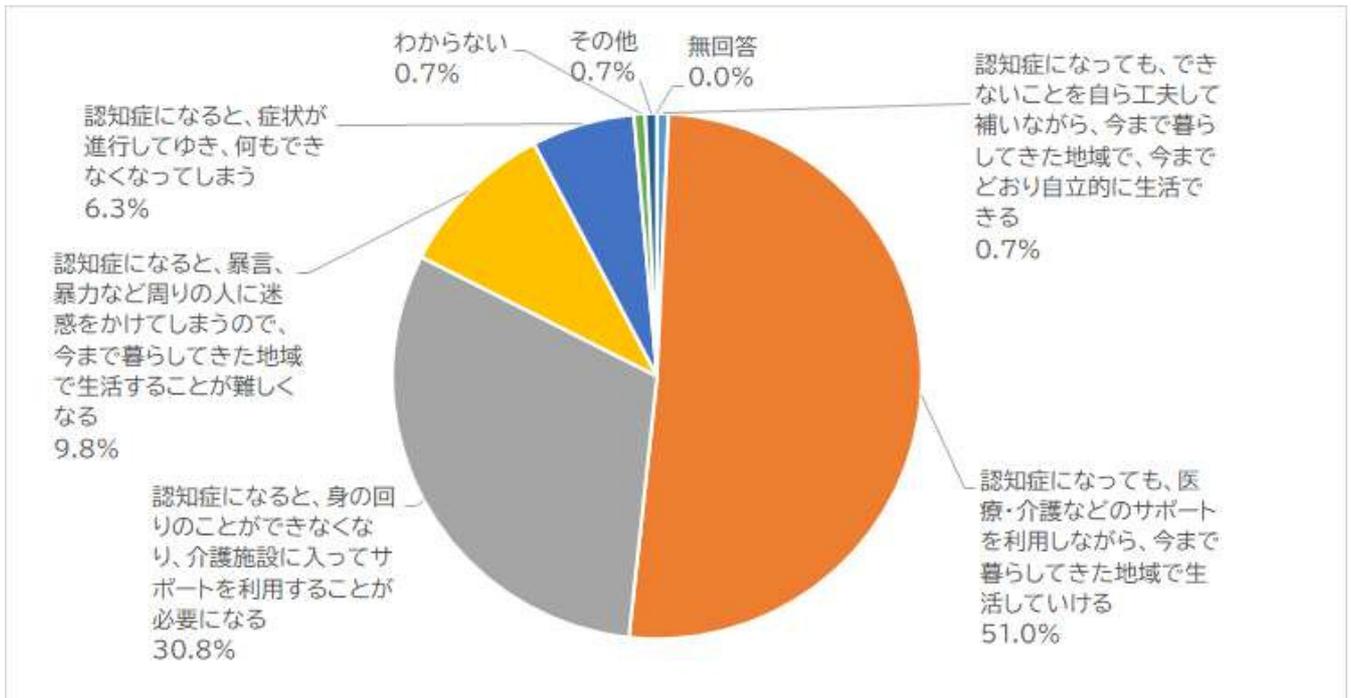
		回答者数	聞いたことがある	聞いたことがない	無回答
全体		143人	94.4%	5.6%	0.0%
性別	男性	65人	90.8%	9.2%	0.0%
	女性	78人	97.4%	2.6%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	50.0%	50.0%	0.0%
	20歳代	17人	82.4%	17.6%	0.0%
	30歳代	19人	100.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	22人	95.5%	4.5%	0.0%
	50歳代	23人	100.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	95.2%	4.8%	0.0%
	70歳以上	39人	94.9%	5.1%	0.0%
区別	門司区	16人	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	33人	90.9%	9.1%	0.0%
	小倉南区	25人	100.0%	0.0%	0.0%
	若松区	7人	85.7%	14.3%	0.0%
	八幡東区	11人	100.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	41人	90.2%	9.8%	0.0%
	戸畑区	10人	100.0%	0.0%	0.0%

若年性認知症という言葉聞いたことがあるかについて、「聞いたことがある」が94.4%、「聞いたことがない」が5.6%でした。

若年性認知症という言葉についても、認知度が非常に高いことが分かります。

(認知症に対するイメージ)

問6 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。



		回答者数	認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる	認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活している	認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる	認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう
全体		143人	0.7%	51.0%	30.8%	9.8%	6.3%
性別	男性	65人	0.0%	44.6%	38.5%	12.3%	4.6%
	女性	78人	1.3%	56.4%	24.4%	7.7%	7.7%
年齢別	10歳代	2人	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	0.0%	47.1%	29.4%	17.6%	5.9%
	30歳代	19人	0.0%	31.6%	52.6%	5.3%	10.5%
	40歳代	22人	0.0%	31.8%	45.5%	13.6%	4.5%
	50歳代	23人	0.0%	65.2%	17.4%	13.0%	4.3%
	60歳代	21人	4.8%	61.9%	23.8%	4.8%	0.0%
	70歳以上	39人	0.0%	59.0%	23.1%	7.7%	10.3%
区別	門司区	16人	0.0%	56.3%	18.8%	18.8%	6.3%
	小倉北区	33人	0.0%	48.5%	36.4%	12.1%	3.0%
	小倉南区	25人	4.0%	44.0%	36.0%	4.0%	12.0%
	若松区	7人	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11人	0.0%	63.6%	27.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	41人	0.0%	53.7%	24.4%	9.8%	9.8%
	戸畑区	10人	0.0%	30.0%	50.0%	20.0%	0.0%

(次ページへ続く)

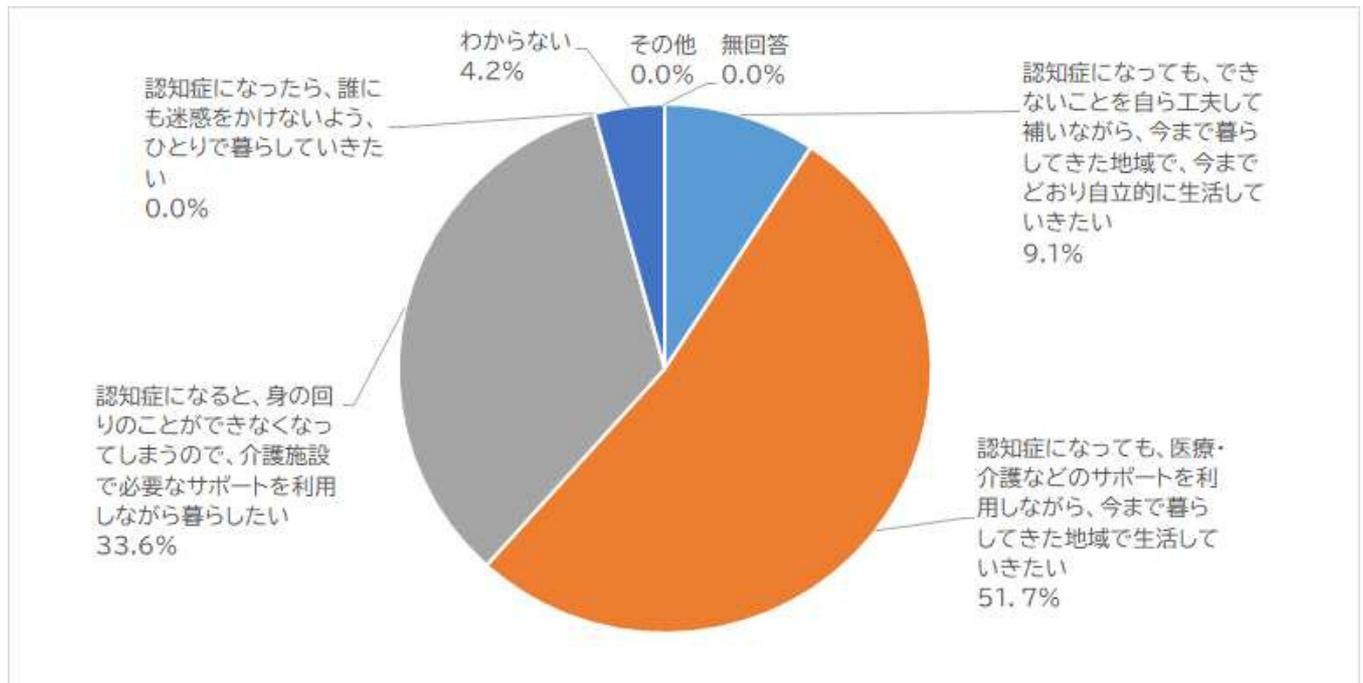
		回答者数	わからない	その他	無回答
全体		143人	0.7%	0.7%	0.0%
性別	男性	65人	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	78人	1.3%	1.3%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	22人	0.0%	4.5%	0.0%
	50歳代	23人	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	4.8%	0.0%	0.0%
	70歳以上	39人	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	16人	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	33人	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	25人	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	7人	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11人	9.1%	0.0%	0.0%
	八幡西区	41人	0.0%	2.4%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	0.0%	0.0%

認知症に対するイメージについて、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が最も多く 51.0%、次いで「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が 30.8%となっています。

一方で、「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる」と考えている方は 0.7%で、ほとんどいないことが分かります。

(認知症になった場合の暮らし)

問7 もし、あなたご自身が認知症になったら、どのように暮らしたいと思いますか。



		回答者数	認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活していきたい	認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい	認知症になると、身の回りのことができなくなってしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい	認知症になったら、誰にも迷惑をかけないよう、ひとりで暮らしていきたい	わからない
全体		143人	9.1%	51.7%	33.6%	0.0%	4.2%
性別	男性	65人	12.3%	50.5%	32.3%	0.0%	4.6%
	女性	78人	6.4%	52.6%	34.6%	0.0%	3.8%
年齢別	10歳代	2人	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	17.6%	41.2%	35.3%	0.0%	5.9%
	30歳代	19人	10.5%	52.6%	31.6%	0.0%	0.0%
	40歳代	22人	13.6%	40.9%	36.4%	0.0%	9.1%
	50歳代	23人	8.7%	47.8%	39.1%	0.0%	4.3%
	60歳代	21人	9.5%	57.1%	28.6%	0.0%	4.8%
	70歳以上	39人	2.6%	61.5%	30.8%	0.0%	2.6%
区別	門司区	16人	0.0%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%
	小倉北区	33人	12.1%	54.5%	27.3%	0.0%	6.1%
	小倉南区	25人	16.0%	60.0%	20.0%	0.0%	4.0%
	若松区	7人	0.0%	42.9%	28.6%	0.0%	14.3%
	八幡東区	11人	0.0%	63.6%	27.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	41人	4.9%	46.3%	46.3%	0.0%	2.4%
	戸畑区	10人	30.0%	20.0%	40.0%	0.0%	10.0%

(次ページへ続く)

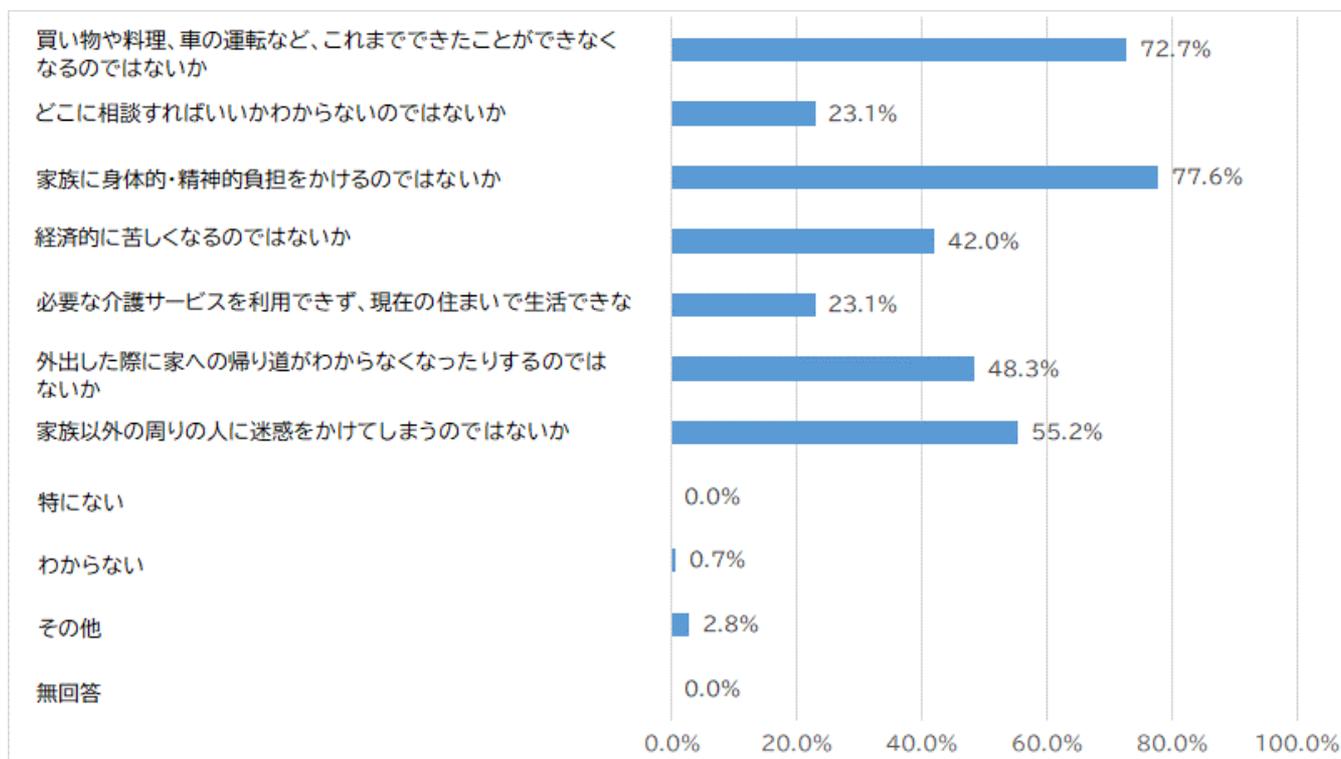
		回答者数	その他	無回答
全体		143人	1.4%	0.0%
性別	男性	65人	0.0%	0.0%
	女性	78人	2.6%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	5.3%	0.0%
	40歳代	22人	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	0.0%	0.0%
	70歳以上	39人	2.6%	0.0%
区別	門司区	16人	0.0%	0.0%
	小倉北区	33人	0.0%	0.0%
	小倉南区	25人	0.0%	0.0%
	若松区	7人	14.3%	0.0%
	八幡東区	11人	9.1%	0.0%
	八幡西区	41人	0.0%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	0.0%

認知症になった場合の暮らしについて、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が最も多く51.7%、次いで「認知症になると、身の回りのことができなくなってしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」が33.6%となっています。

一方で、「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活していきたい」が9.1%で非常に少なく、「ひとりで暮らしていきたい」と答えた方はいませんでした。

(認知症に対する不安)

問8 もし、あなた自身が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じると思いますか。(複数回答可)



		回答者数	買い物や料理、車の運転など、これまでできたことができなくなるのではないか	どこに相談すればいいかわからないのではないか	家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか	経済的に苦しくなるのではないか	必要な介護サービスを利用できず、現在の住まいで生活できないのではないか	外出した際に家への帰り道がわからなくなったりするのではないか
全体		143人	72.7%	23.1%	77.6%	42.0%	23.1%	48.3%
性別	男性	65人	69.2%	26.2%	73.8%	53.8%	32.3%	43.1%
	女性	78人	75.6%	20.5%	80.8%	32.1%	15.4%	52.6%
年齢別	10歳代	2人	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
	20歳代	17人	58.8%	29.4%	64.7%	35.3%	5.9%	47.1%
	30歳代	19人	94.7%	21.1%	73.7%	57.9%	26.3%	57.9%
	40歳代	22人	86.4%	36.4%	86.4%	72.7%	40.9%	54.5%
	50歳代	23人	65.2%	21.7%	78.3%	34.8%	13.0%	47.8%
	60歳代	21人	76.2%	19.0%	81.0%	28.6%	19.0%	52.4%
	70歳以上	39人	64.1%	15.4%	79.5%	30.8%	25.6%	38.5%
区別	門司区	16人	75.0%	25.0%	93.8%	62.5%	25.0%	50.0%
	小倉北区	33人	69.0%	12.1%	81.8%	39.4%	15.2%	51.5%
	小倉南区	25人	92.0%	24.0%	60.0%	48.0%	20.0%	52.0%
	若松区	7人	85.7%	14.3%	57.1%	28.6%	14.3%	28.6%
	八幡東区	11人	63.6%	18.2%	90.9%	45.5%	27.3%	45.5%
	八幡西区	41人	65.9%	34.1%	80.5%	36.6%	29.3%	48.8%
	戸畑区	10人	60.0%	20.0%	70.0%	30.0%	30.0%	40.0%

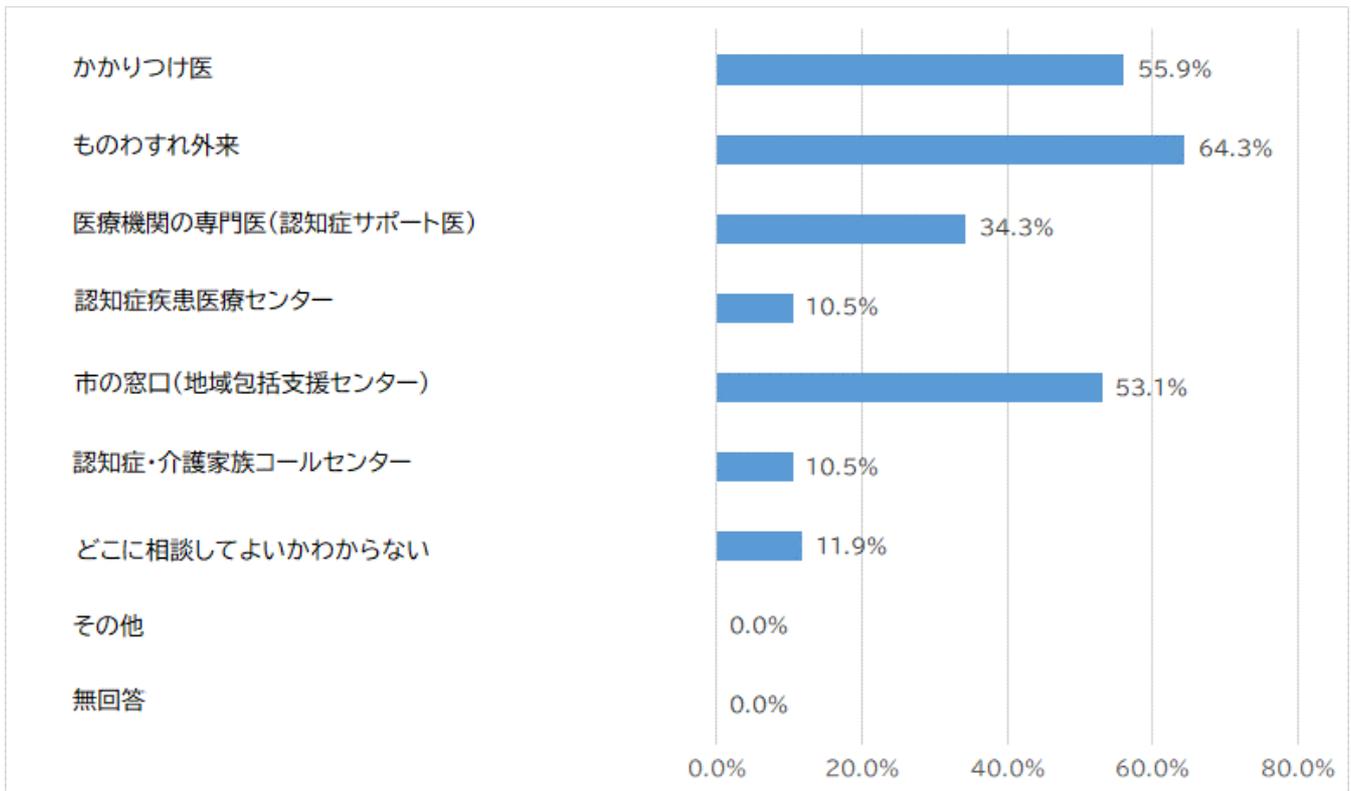
(次ページへ続く)

		回 答 者 数	家族以外の周りの 人に迷惑をかけて しまうのではない か	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体		143人	55.2%	0.0%	0.7%	2.8%	0.0%
性 別	男性	65人	47.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	78人	61.5%	0.0%	1.3%	5.1%	0.0%
年 齢 別	10歳代	2人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	64.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	52.6%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%
	40歳代	22人	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	60.9%	0.0%	4.3%	4.3%	0.0%
	60歳代	21人	52.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	39人	53.8%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%
区 別	門司区	16人	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	33人	72.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	25人	52.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	7人	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%
	八幡東区	11人	45.5%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%
	八幡西区	41人	51.2%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%
	戸畑区	10人	30.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%

認知症に対する不安について、「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか」が最も多く 77.6%、次いで「買い物や料理、車の運転など、これまでできたことができなくなるのではないか」が 72.7%という結果になりました。

(認知症に関する相談窓口について)

問9 認知症に関する相談窓口として、あなたが知っているものを全て選択してください。
(複数回答可)



		回答者数	かかりつけ医	ものわすれ外来	医療機関の専門医(認知症サポート医)	認知症疾患医療センター	市の窓口(地域包括支援センター)	認知症・介護家族コールセンター
全体		143人	55.9%	64.3%	34.3%	10.5%	53.1%	10.5%
性別	男性	65人	50.8%	52.3%	33.8%	10.8%	46.2%	9.2%
	女性	78人	60.3%	74.4%	34.6%	10.3%	59.0%	11.5%
年齢別	10歳代	2人	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	20歳代	17人	64.7%	47.1%	41.2%	0.0%	23.5%	11.8%
	30歳代	19人	36.8%	78.9%	21.1%	10.5%	47.4%	0.0%
	40歳代	22人	54.5%	77.3%	31.8%	4.5%	50.0%	13.6%
	50歳代	23人	56.5%	43.5%	34.8%	8.7%	56.5%	4.3%
	60歳代	21人	57.1%	66.7%	28.6%	9.5%	66.7%	9.5%
	70歳以上	39人	61.5%	66.7%	43.6%	20.5%	61.5%	17.9%
区別	門司区	16人	37.5%	68.8%	56.3%	31.3%	56.3%	12.5%
	小倉北区	33人	48.5%	57.6%	30.3%	9.1%	51.5%	9.1%
	小倉南区	25人	56.0%	76.0%	20.0%	4.0%	56.0%	8.0%
	若松区	7人	57.1%	85.7%	28.6%	14.3%	42.9%	0.0%
	八幡東区	11人	63.6%	54.5%	27.3%	9.1%	54.5%	18.2%
	八幡西区	41人	68.3%	56.1%	43.9%	9.8%	56.1%	14.6%
	戸畑区	10人	50.0%	80.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%

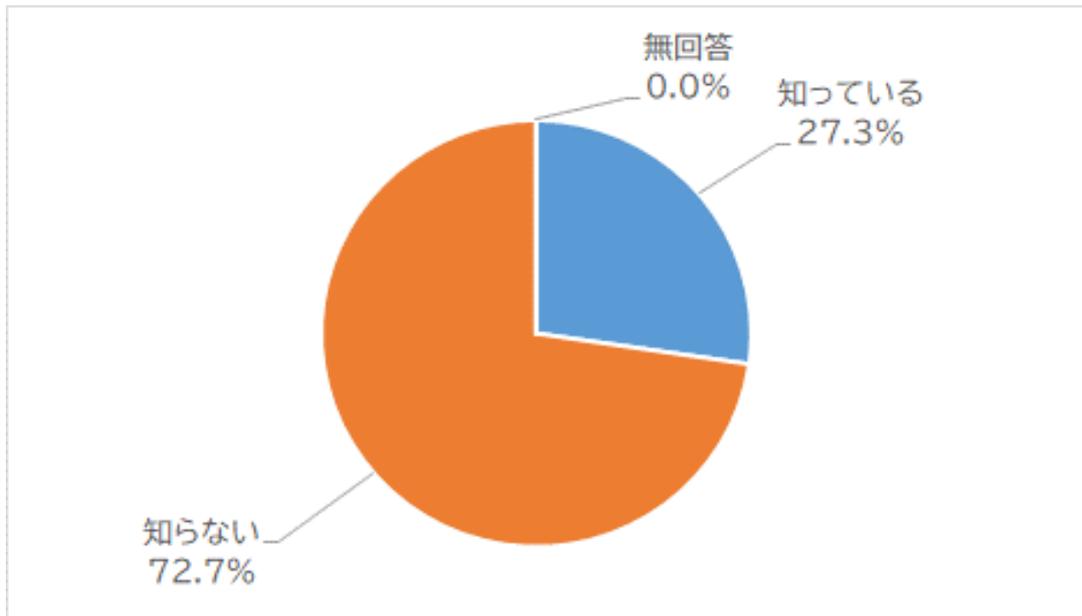
(次ページへ続く)

		回答者数	どこに相談してよいかわからない	その他	無回答
全体		143人	11.9%	0.0%	0.0%
性別	男性	65人	15.4%	0.0%	0.0%
	女性	78人	9.0%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	17.6%	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	10.5%	0.0%	0.0%
	40歳代	22人	13.6%	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	17.4%	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	4.8%	0.0%	0.0%
	70歳以上	39人	10.3%	0.0%	0.0%
区別	門司区	16人	12.5%	0.0%	0.0%
	小倉北区	33人	15.2%	0.0%	0.0%
	小倉南区	25人	8.0%	0.0%	0.0%
	若松区	7人	14.3%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11人	9.1%	0.0%	0.0%
	八幡西区	41人	12.2%	0.0%	0.0%
	戸畑区	10人	10.0%	0.0%	0.0%

認知症に関する相談窓口として、知っているものは、「ものわすれ外来」が 64.3%で最も多く、次いで「かかりつけ医」が 55.9%、「市の窓口(地域包括支援センター)」が 53.1%という結果でした。

(認知症サポーターについて)

問10 あなたは認知症サポーターを知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		143人	27.3%	72.7%	0.0%
性別	男性	65人	30.8%	69.2%	0.0%
	女性	78人	24.4%	75.6%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	17人	17.6%	82.4%	0.0%
	30歳代	19人	36.8%	63.2%	0.0%
	40歳代	22人	22.7%	77.3%	0.0%
	50歳代	23人	21.7%	78.3%	0.0%
	60歳代	21人	23.8%	76.2%	0.0%
	70歳以上	39人	35.9%	64.1%	0.0%
区別	門司区	16人	37.5%	62.5%	0.0%
	小倉北区	33人	33.3%	66.7%	0.0%
	小倉南区	25人	20.0%	80.0%	0.0%
	若松区	7人	14.3%	85.7%	0.0%
	八幡東区	11人	36.4%	63.6%	0.0%
	八幡西区	41人	26.8%	73.2%	0.0%
	戸畑区	10人	10.0%	90.0%	0.0%

認知症サポーターについて、「知っている」が 27.3%、「知らない」が 72.7%となっており、認知度が低いことが分かりました。

年代別では、「知っている」が 10 歳代で 0.0%、20 歳代で 17.6%となっており、若年層で特に認知度が低いことが分かりました。

問11 地域で暮らす認知症の人や家族の困りごとに対し、認知症サポーターがどのような支援を行うことが可能か、考えられる支援の内容を自由に記載してください。

・認知サポーター育成講座の充実。どんな時にどんな対応ができるか、人によってやり方が違ったり言動が違ったりしないように、マニュアル通りにならないように意識を共有することが、まず一番だと思う。家族に対して家族からの要求で動くのではなく、定期的に巡回して困りごとを聞く。色々なことを話したいと思うので話をよく聞いてあげる。それで救われる部分があると思う。

・チームオレンジの存在を知らなかったので広く認知できるように PR 活動を始める。認知症は時間が関係ないので 24 時間サポート体制が必要。なるべく安価で支援が受けられるシステム作り。

・本人が悩んでいることを聞き必要な支援をしたらよい。

・該当者及び家族への支援サポートとともに、行政機関・議会への働きかけをもっと進めてほしい(行政の窓口で相談に行ったとき経験があるがきわめて事務的かつ誤った対応をされたことがある。行政担当者のスキルの向上を図るべき)

・認知症と判断された人が身近にいた場合、注視して見守らなければならないので 24 時間個別に分担して責任もって行動を監視する必要があると思う。重病人的に進行した場合は施設に依存することもやむを得ないと考える。

・サポーターや活動を生活の身近に置くことが大切。そのため、サポーターの拠点は、どの地域にもある既存の組織・施設(例:市民センター、まちづくり協議会、民生委員など)とし、同時に既存の組織の役割を見直し、サポーターの活動・相談に地域の特徴を盛り込んでいくことが重要。地域活動の一環と位置づけることが成否の分かれ目と考える。2. サポーターの有・準資格者を増やすこと。まず、市職関連施設の職員は半ば強制的に研修・セミナーへの参加を誘導し、資格等を取得させる。民生委員(要待遇改善)などは、中核を担う存在です。次第に裾野を広げ、大企業、学生へ導く。認知症の問題は対応如何によっては北九州の未来の姿を見通す事態を招くかも。3.相談窓口は、地域の拠点に置く方がよい。地域住民は相談を嫌がるかも知れないが、分散させると市民の目線・理解・気易さ、市民の教育、情報の収集・活用・分析・管理、責任の所在があいまいとなる。認知症を専門家の問題としてはいけない。何事も費用・労働などの負担を少なくし、安く仕上げていくことがポイント。そのため、経営資源をよく見極めていくことが大切。※支援の内容は時代・環境に応じて変化するものであり、常に現状把握を行い、柔軟な方針・内容とすることが大切。このことを怠り、失敗することが多いのでは。

・チームで分担して軽い散歩や買い物などに付き合う。話を聞いてあげる。

・家族に対して、認知症についての(本人の)状況を適切に説明し、どのようなサービスが受けられるかを具体的に説明する。介護保険の使い方を具体的に知らせる。近所の見守りについ

て、八幡東区は高齢化が高いので近所力にはたよれない面もあると思います。様々な力(福祉)のつながりを組織にしていく必要があるかと思います。特に独居の方の日常生活(ゴミ捨て等)についても工夫がいるかと思います。

・難しいことだと思いますが、家族の方のストレスを少しでもなくすために、サポーターに少しの時間、認知症の人をまかせてみる。サポーターをふやす。

・チームオレンジ知らなかったです。早急にやってほしいです。民生委員の人は知っていますが1度会ったきりです。今町内会を抜けています。高齢者が増えて維持できないと7年ぐらいになります。単独でも町内のことがわかるシステムがあればいいと思っています。市政だよりはセンターでもらって近所の高齢者へ届けています。とにかく情報をキャッチすることで人に知らせています。今はまだ動けていますが、先々は不安材料、山積です。

・支援チームという形より近所で助け合いのようなことができればよい(見守りのような)行政がチームを作っても私たちは利用しにくいと思う。過去、近所に認知症の方がいたが近所で声をかけて、たまにおかずの一品届けたりして助け合った記憶がある。

・サポーターを知りませんでした。友人の母はグループホームにいて一度だけ会いに行きました。同居していれば家族に対してのサポートが必要ではないでしょうか。安価で入れる施設が必要です。経済的なサポートも必要ではないでしょうか。

・居住地区に認知症サポーター等がいらっしゃることを知らません。もっと回覧板や市広報にてわかるように知らせてほしいです。家族の負担を少なくするような対策がほしいです。

・認知症サポーターが常に市民センターにて正しい知識やお世話の仕方を定期的に学ぶ(年3回位) 認知症のいる家庭を定期的に伺う。地域の集いの家で認知症やその家族、そして関心のある人たちと交流会を持つ(茶話会) 地域の巡回。

・普段から近所にどのような状態の人が住んでいるのかを知るために交流が必要だと思うが、実際は難しい状況である。しかし、いざという時に相談できるように地域での交流行事を増やし、日頃から周りを把握することができたら良いと思う。認知症を家族だけで抱え込む問題ではないという情報を提供していく必要があると感じている。

・認知症サポーター養成講座のことは知っているが、残念ながら受講していない。誰でもなりうる認知症について人生100年といわれる昨今理解を深める意味でも幼少期から出前講座として伝えることが大切だと思います。

・認知症サポーターと言う語、そのものも聞くもの初めてで、全国で活動が進められている事すら、全く知りませんでした。当然「チームオレンジ」の名称、活動も全く知りませんでした。私も71才となり兄(別居)が認知症で一週間に一回屋外へ連れ出し気分転換させていますし、週に2回TELで会話する日々です。同居する姉も同年齢で兄の介護(週4日デイサービス日帰り)を行っております。姉の負担が増大しており悲鳴のTELが増えております。具体的な対応や支援策など解らず、不安ばかりの毎日です。また、私自身も認知症になるのでは?の恐怖感ばかりです。支援策については、まず「手もあげていない」「声を出せていない」認知

症をかかえている人達(あまり世間様に迷惑をかけてはいけない等の気持ちで口を開かない)への調査が必要と思います。

・いつまでもいきいき自分らしい生活が送れるよう努力して生きたいです。最近新聞記事で読みました。カレーライスが認知症予防に良い食品だそうです。(月に4回以上)市政便り、町内会の回覧板で健康面でのPRが多い中で、私の場合、土曜、日曜日休みがとれなく、地域の行事に参加できなくて残念です。退職の日は未定ですが、先々は大いに参加したいと思っております。(音楽会、歩こう会など)

・地域の福祉協力員をしているので、65才以上の一人暮らしの家庭をまわっています。軽い認知症だとか近所や友人が教えてくれたりしますが、本人にはその意識がないので私たちに普通に接しています。私の回りでオレンジリングをしている人をまだ見たことがない。もっと私たちがわかる様なオレンジリングを教えて欲しい。徘徊する様な認知だと家族の負担が大きいので自分自身どうすればよいかむずかしい問題です。私の親族には認知症の人はいない。

・親身に寄り添って下さるサポーターを選んで欲しいです。

・話を聞く。簡単な家事や買い物などの手伝い。

・徘徊して他人に迷惑かけないように家族が四六時中見守り続けることは不可能なので地域全体で声かけを行うなど、地域として見守る。

・私は家にお掃除のヘルパーさんをお願いしています。だからそこの方(会社)に相談しようと思っています。そうすれば色々に分かると思います。

・よく分かりません。

・介護者へのサポート、ショートステイなどの活用。

・認知症の方をケアする人自体が肉体的、精神的に追い込まれないようなケアが一番必要だと思います。

・当事者と家族だけの生活ではなく、第三者が介入することで、家族関係のマンネリ化をなくし、違う視点でのアドバイスやケアマネージャーとの連携で当事者へのより良い介護福祉へ繋げる等のサポートが可能。家族内で介護を抱えると、家族関係がいびつ化して機能不全に陥る為、「言いたいこと。」「言えないけど伝えたいこと。」を良いタイミングで共有できるサポートが可能。ただ、サポーターの介入時間や時期・経験値により幅広い為、どこまで?の判断が困難な面がある。

・認知症の人に対するケア方法を教える。認知症の本人に対してどのように支えていけばよいか専門的な知識を、家族などが知れたら役に立つと思う。

・出来るなら地域で見守れたら、と思います。そのためには地域社会で勉強する必要があると思います。

・その人の認知症度合いによるが、自宅で生活するならまず環境の整備(整理整頓して勝手に出歩かないよう柵をしたり)や家族が仕事に安心していけるような保育所的な施設を設ける等。

・①家族や患者の不安や困り事を相談されれば、とにかく親身になり聞き、解決の方法を探り、または適切な窓口や方法を紹介する。

②患者がいなくなった場合の搜索の手助け。

③家族が外出したり用事を済ませたい場合、代わりに患者を見守る。

④家族の心のケア。

⑤認知症全般に対する寄付金の募集、また企業等への交渉をし、必要な事に役立てる。

・地域で見守るという役割かなと思います。支援が必要であれば、窓口になり、個別に必要な支援を選別し、提供する場や人を紹介してもらえるといいと思います。また支援した内容をフィードバックして、次に活かして、より個別対応ができたらと思います。

・認知症になってしまったら、本人は相談したいという概念もなくなってしまうのではないかと思います。独り身の方など、家族の協力が得られない場合でも手続きなどをせずに支援を受けられるシステムがあれば良いと思います。

・日々の見守りによる、日常生活での困りごとのサポート病院への送迎。

・本人や家族の方の相談窓口、必要に応じた介護施設や病院などへの案内、認知症の症状に合わせた本人や家族へのアドバイス、家族の方へ支援チームの存在を知らせる広報活動、地域の医師との連携、病院や施設などへの訪問。

・身近に認知症の人がいないので実際に認知症の方やそのご家族の困りごとが想像の範疇でしかありませんが、当事者や家族以外の第三者に相談できる相手(行政サポートの提案等ができる方)がいることが一番の精神的なサポートになるかと思います。また、認知症患者とその家族の困りごとを「知る」機会を設けることで地域社会として認知症への理解を深め、当事者になったときにすべきことの準備もできると思います。

・火を使わなくて済む食事、暮らしのサポート、何度も同じことを話す親に対しての対処法、急な泊まりをサポートしてほしい、介護している家族の息抜きは必要、遊びに行っている家族のどこか心苦しさを緩和されるべき。

・人間としての尊厳を維持しながら、人生を全うできるようにサポートできる体制をつくり、私自身もそのお手伝いができるように取り組みたい。

・買い物の手伝い、病院の付き添い、薬の服用に関してカレンダーと共に貼るなど飲み忘れ防止管理。

・買い物や入浴介助等で認知症家族の落ち着ける時間を増やす支援。

・認知症の人に対しては、認知症サポーターとしての知識を生かしたコミュニケーションを意識して支援を行ったり、地域との疎外感を与えないようにしたりする事ができると思います。

家族に対しては、認知症の人への接し方やコミュニケーションの取り方についてアドバイスを
行ったり、介護によって疲弊した心のケアを行ったりする事ができると思います。

全体的には、認知症サポーターの活動

(<https://www.caravanmate.com/activities/>)にあるグラフの割合が低い項目ほど
高くしていかなければならない項目だと思っています。

- ・声かけ、行動の手助けなどです。
 - ・1人暮らしで認知症の方(1人暮らしが厳しい方)に施設を紹介するサポート。
 - ・家族で認知症の方をみている方へのアドバイスや精神的サポート。
 - ・認知症に関する知識、理解促進にむけての活動。
 - ・認知症の人の買い物・通院など外出時の送迎、付き添い。
 - ・認知症の人が自宅で生活する際の暮らしの知恵をアドバイスする
 - ・家族で同居している場合は、日頃の様子をヒアリングして家事や対応で追われる時間帯に訪問してサポートする。
 - ・地域のお店や公共施設が提携して町全体で支援する。(積極的に会話をしてコミュニケーションを取るなど)
 - ・1 相談相手...認知症の方やそのご家族の話を聴いて、その相談内容によっては、行政や担当機関への橋渡しをする等、日々の生活に対する安心感を得て頂く為のサポートを行う。
 - ・2 見守り...孤立化防止の為、定期的な訪問を実施し、事故に遭遇したり、迷子になる等の事態を防止する。
- 3 外出時の同行...買い物や通院等の際に同行し、支払いや手続きをサポートする。
- ・自宅で認知症の介護をしている人にかかる負担は自殺に追い込まれるほどです。そうなる前に介護している人にも自由にできる時間が定期的にあれば疲れている時があってもそれを目標に前向きになれる時があると思います。支援の名目としては留守番みたいな感じでしょうか。頼る人もいない人は自由な時間も持つことができないと思いますから。
 - ・相談を聞く。家族が外出時、家で見守りをしてあげる。
 - ・チームのことをまず第一に知りませんでした。家族の誰かが常に付添っていなければならないとなると否応なしに家族全員の生活に変調をきたしてしまうとおもいます。認知症のような事が見かけられたらこれから先どうしたら良いのかを相談できる所を沢山教えて欲しいと思います。
 - ・認知症の方へは、不安を取り除くために、受けることのできる治療や薬、最新の情報を伝える仕組みづくり。家族へは、家族がいままでどおりの日常の生活に近づけることができるようにサポート。
 - ・父親が認知症でした。母は近所の人に隠さずにオープンにして協力してもらっていました。母も病気をされていて若くもなかったのととても助かりました。ご近所さんのサポートは大切

だと、思いました。家族や支援して下さる方々よりも迅速でタイムリーでした。元保健婦さんが近所にいらしたのもラッキーでした。

- ・困った時にいつでも連絡が取れたり、買い物や病院などに付き添って貰えたら助かります。
- ・具体的な支援については個々のニーズによると思うので、気軽に相談できたり、支援を依頼できる関係を日頃から築いていくことが大切だと思う。例えば、日頃から挨拶や会話をし、地域の活動などに参加するなどして、よい関係性を築いていくとよいのではないかな。
- ・24時間、相談できる窓口をつくる。市政だよりだと見ない方々もいるし、ポストに配布されない地域もあるので、それぞれの区が支援できる病院、センターの住所、電話等を記載した紙を北九州市の全世帯に配布する。
- ・介護をしている家族と定期的に面談をし、その家庭と症状の進み具合にあったサポートや制度をアドバイスしてほしい。支える家族の精神的負担や時間的な負担は本当に大きいので共倒れにならないように誰かの目があるという事を知らせてほしい。
- ・話をする(認知症のことにかかわらず、世間話など、楽しい時間を過ごす)
- ・お出かけサポート(買い物だけでなく、レジャーや旅行に行く)
- ・体を動かす(体操やストレッチなど)
- ・相談、医師へのコンタクト。
- ・家族とは言え、24時間365日介護となると介護される家族に当たってしまうことも考えられます。認知症のニュースではなかったのですが、介護が必要な方が週に1日ないし2日だけ病院に外泊するというのがあるというのを見ました。在宅サービスがあるのは知ってましたが、普段がご自宅、たまに病院という選択肢があることを知りませんでした。病院のような100%のことはできなくても近いことができればと思っています。グレーゾーンというか、全部が家族、全部が病院やサポーターとかではなくグラデーションで費用負担や支援ができればと思います。
- ・人とお話ししたり近くに出掛けたりする事で病状を緩やかにできるのではないかなと思うので同じ方達との集まりの場所があれば良いなと思いました。
- ・声掛け支援 四六時中忘れていないわけではないので、声掛けで様子がおかしければ家族に連絡したり、本人に指示(支援してあげたり)してあげるなど、ほんの少しの支援でとても助かることが多い。そのための周囲の理解や認知が必要ですね。
- ・「チームオレンジ」という支援チームがあることをはじめて知りましたが、考えられる支援の内容は、お世話(介護)をする人への相談ごとが主になると思います。
- ・認知の具合で、サポートも異なると思いますが、まずはその対象者、周りの家族と密に連携をとりながら今、困っていることについて親身に話を聞き、不安を取り除いて欲しい。
- ・家族会の実施(孤立を防ぐため)
- ・介護施設やケアマネなど適切な社会資源とつながる支援。

- ・数年前にオレンジチームの講習を受講致しました。残念ながら原状では何の貢献もできていません。今の段階では、一般の方で日中仕事の方は、講習なども受けづらく、厳しい状況です。もっと多方面に参加しやすい、コンテンツを増やして頂きたいとおもいます。
- ・当事者の代わりに買い物をする。
- ・当事者やその家族の話し相手になる。
- ・認知症の進行を遅らせられるよう、脳トレや軽い運動などを一緒に行う。
- ・数年前にオレンジチームの講習を受講致しております。原状で言いますと、何にも貢献出来ていない状況です。
- ・一人住まいの場合、常に声掛けが必要で何をして欲しいのか何が困っているのかを知り、行動を起こしてあげることが必要と思います。又、家族と一緒にいる場合、家族に負担がかかるのでなるべく家族の休める時間を作ってあげる事も大切だと思います。
- ・認知症の方が1人で外出してしまった際などに、速やかに保護できるような支援があると安心できると思います。また、すでにあるかとは思いますが、認知症患者の家族どうしのコミュニティを作ることも大事だと思います。
- ・認知症の疑いが出た時点で自分または家族も含め早めに市の窓口(支援チーム)や医療関係に連絡をして情報交換に努める。自身と周りのサポート関係と早く準備をする事と上記情報交換が大切だと思います。
- ・市の窓口を頼りたいところです。この街で暮らし続けるならば。しかし、包括支援というのが、わかりづらいです。その立場になりここを利用するのだよという説明を受けるまでは。何にも気にしてないひとが、パツと分かりやすく表現をして欲しいです。例えば…税務課とか、農政課とか広報とかならば、わかりやすい？イメージしやすいです。対象年齢が近づいてくるまえに、高校生や二十代でもわかっているのと、良さそうです。(もちろんいつ必要になる情報かは年代ではくくれません)すみません、上記はサポーターの間と思わずに書いてしまいました。(サポーターの間は飛ばしてしまっていました。すみません)こういう活動は知りたいです。家族知人がなくなってからでなくなる前に。知っておきたいし活動しながら覚えて対応していきたいし、役にたきたいです。
- ・定期的な訪問や声掛け、イベント開催による地域の一体感の醸成。専門的なサポートは行政や医療機関が対応し、家族に対するものも含め、精神的なサポートができる心強いのではないか。
- ・認知症の方の家族だけで面倒を見ることは難しくなっている現状があるので、町内会や民生委員などと協力して、地域ぐるみで認知症の方を見守り、支援ができる仕組みが必要。まずは地域で繋がりを作り、その繋がりの中で得た情報をチームオレンジ等の支援団体と共有して、認知症の方とその家族を継続的に支援できたら良い。認知症の方とその家族には、たくさんの関係者(行政、民間団体、福祉サービス、地域住民)との繋がりを作ってあげれば、孤立することなく必要な支援を受けながら支え合い生活ができると思われる。

・この取り組み自体の認知度が低い。まず、認知を広げる。家族が働いている世帯が多いと思うので、相談機関は夜間も相談可能にする。できれば、各区1ヶ所くらいは年中無休の体制がほしい。

・まずは認知症の方にかかりつけ医がいるかどうか、持病がなくかかりつけ医を持たない方に認知の症状が出た場合、まずは認知症の診断をつけるため、どのようにして受診にこぎつけるかの第一関門が重要になってくると思います。

・「チームオレンジ」というものを始めて聞きました。もっと認知度を上げるため、市政やメディアなどで取り上げてほしいと思います。どのような支援が必要かは、「チームオレンジ」が分かりませんので、どのように答えたらいいか分かりかねます。

・認知症の人とその家族がどのような生活を送りたいのかヒアリングをして、寄り添いそれぞれの希望にあったような伴走支援をする。チームが同じ人を継続的にサポートすると良い。そうすると信頼関係もうまれると思う。(はじめましての人に心は開きにくいので)

・家族と一緒に暮らしているか、遠方に暮らしているかによって家族のサポートと支援して貰える内容が異なると思います。又、核家族や仕事している状況等を踏まえた支援対策等のサポート内容を打ち出してくれたら安心して遠方でも相談出来ます。

・話し相手になってあげる。

・家族の目が届かない時間帯のサポート体制が整うと安心して日常生活が過ごせると思います。行動支援を充実していくと患者本人、家族の方が喜ばれると思います。

・家族のように接し、話しかけること。

・ちょっとした買い物のお手伝い スーパーに買い物だけではなく、薬局や郵便(荷物)など、ついでに一緒に出来ることを手伝えると思う。

・まず知ること 同じ地域(生活圏)で認知症の方がいることを知っておくと、少しの声掛けでも気分転換になったり、顔見知り(家族とも)なれると思う。

1. 情報提供 認知症についての情報を提供し、認知症の症状や進行の理解を促す。また、地域の支援機関や施設の情報提供も行い、必要な場合はその手続きのサポートを行う。

2. コミュニケーション支援 認知症の人がコミュニケーションに苦手意識を持っている場合や、コミュニケーションが上手くいかない場合に、コミュニケーションのサポートを行う。

3. 生活支援 認知症の人の日常生活に必要な支援を行う。例えば、食事のサポート、入浴のサポート、家事のサポートなど。

4. レクリエーション支援 認知症の人の余暇活動や趣味のサポートを行う。例えば、読書や手芸、音楽鑑賞など。

5. 家族支援 認知症の人の家族に対して、ストレスや負担の軽減を目的としたサポートを行う。例えば、家族会や相談会の開催、家族の情報提供や精神的な支援など。

- ・介護施設のような場所に入らざるを得ないと思うもお金がかかりそうなので、そのような心配がない支援が欲しい。特養などの施設がどこも定員一杯で順番待ちがひどいので解消してほしい。
- ・定期的な訪問で社会から隔絶しないようにする。地域全体で認知症の方の状態や状況を共有し、サポートできるような支援ができるのではないかな。
- ・認知症サポーター講座など、一時期市民センターや地域、職場などで多くみられましたが、最近コロナ禍の影響もあり開催している事が少なくなったと思います。また、認知症を発症されている高齢者なども外出する機会も少なくなり目にする機会も減った感じもします。認知症を発症されている高齢者などを抱える家族や親族などが安心して相談できるよう、窓口などの情報を市民に教えていただきたいです。
- ・認知症の人を一定期間預かったり、家に泊まり込みで介助する支援があると良い。認知症になると本人もそうだが家族の負担が大きいので、少しでも軽減される支援をしてもらえるとうれしい。
- ・現在困っている事を聞き取り少しでも不安を取り除いて安心して生活できるように支援する。
- ・食事のサポート、買い物サポート、留守番、送迎。
- ・地域の人が、認知症の日常生活のお手伝いをするような形で介護の資格がなくても、お友達のような感覚で、ゴミ捨てを手伝ったり、庭の草抜きを手伝ったり、食事を一緒に食べたりしたりできると、いいのかな、と思います。
- ・認知症サポーターは、聞いたことがあるが活動形態は全然わからない。市民センター等で定期的に講習を開催希望、また、福祉協力員、民生児童委員と連携し訪問活動訪問活動出来るように。
- ・家族が認知症の人を自宅介護している場合、どうしても介護できない時間が発生することもあると思うので、その時の手助けがあると良いと思います。
- ・特別扱いしないで地域で見守りをしっかりして欲しい。認知機能にレベルがあると思うのでその人のレベルをしっかり把握して 本人の尊厳を傷つけないような方法は難しいかなと思っていますが…若い時から認知症に関する教育をしっかりともらえるとうれしいと思います。高齢化が進むと認知症の人がますます増えてそれが当たり前の社会として機能していける方法を何か考えないといけなかな？
- ・認知症の方にとって必要な支援を行うことが一番ですが認知症であることを隠さずオープンにして頂くのがまず大事なことだと思います。難しいですがそれがないと支援する側もどのようにすれば良いかわからないからです。
- ・家族が 24 時間対応しなければならぬ場合に、家族に代わって一時的に面倒を見て、家族が息抜きできる時間を簡易かつ定期的に確保できる支援が一番必要と思う。

- ・一人暮らしの認知症の人に対しては、町内会を中心に毎日声かけをして、変わったことがないか様子を見て、もし変わった様子であれば、役所等に相談や報告をするようにしたらよいのではないかと思います。
- ・どこにも相談できないで困っている人にヘルプできる仕組みを作ってほしい。
- ・経済的支援、継続的な介護支援、買い物等の支援、掃除支援。
- ・認知症患者が快適にそしてその家族が安心して預かってもらえる専門の施設の充実が必要であると思う。
- ・外出時の対象者の監査。家事のサポート。
- ・精神的なケアが認知症になった本人とその家族に最も必要だと感じる。また、認知症の進行スピードも人によって様々なので細やかで継続できる状況や症状の確認の必要を感じる。その中で手厚いケアを目標におくと人的負担が多くかかり、予算も増大しかねないのでチャット AI など活用し、自動化できるところを増やしていくことが重要ではないでしょうか。
- ・このチームがあることを広げる為に、全国からの「相談あるある→改善」の事例から知りたい。
- ・家族の介助を軽減することで、家族の負担を下げる。
- ・日常生活で最低限必要な暮らしの支援(買い物、料理、掃除、洗濯)介護する家族などの悩みの窓口となれるような存在になること。
- ・経験談ですが、親の介護老人ホームを探すことになった時、ヘルパーさんから直近で入れる施設を 2 箇所紹介されたけど高額で、親の年金では入れそうになかったので自分で探し、条件と予算に合った介護施設に入れることができました。認知症になると自分では介護施設を探すことも書類を整えることも判断もできず、家族がいれば家族が本人に代わり対応することができるけど、家族がいない人はどうするのだろうと親の介護老人ホームの手続きの時に思いました。自治会に参加する人が減り、地域・近隣との付き合いがない人も多い。なかなか支援に繋がらない人もいそう。GPS の貸し出し(エアタグのようなもの)や、活用の仕方をレクチャーしてくれるサービスがあれば利用したい家族はいると思います。私も親の持ち物に付けるエアタグを購入しました。居場所がいつでもわかるので安心。
- ・外出時のサポート、部屋の片付け。
- ・一時的に預かってもらえる場所。→認知症の方は不穏になることもあるため、70 年代から 90 年代の若かりし頃話題になったものに沿った催し物を開いて、その場を離れない(家族を探し出す、家に帰る等)ように工夫する。・認知症の方の話を傾聴する役。→認知症になると社会との接点が減少する。zoom などを使って 4 人程度のグループで談話して精神の安定を図る。
- ・家族の人が孤立しないような声掛け、認知症の方の短時間の見守り。

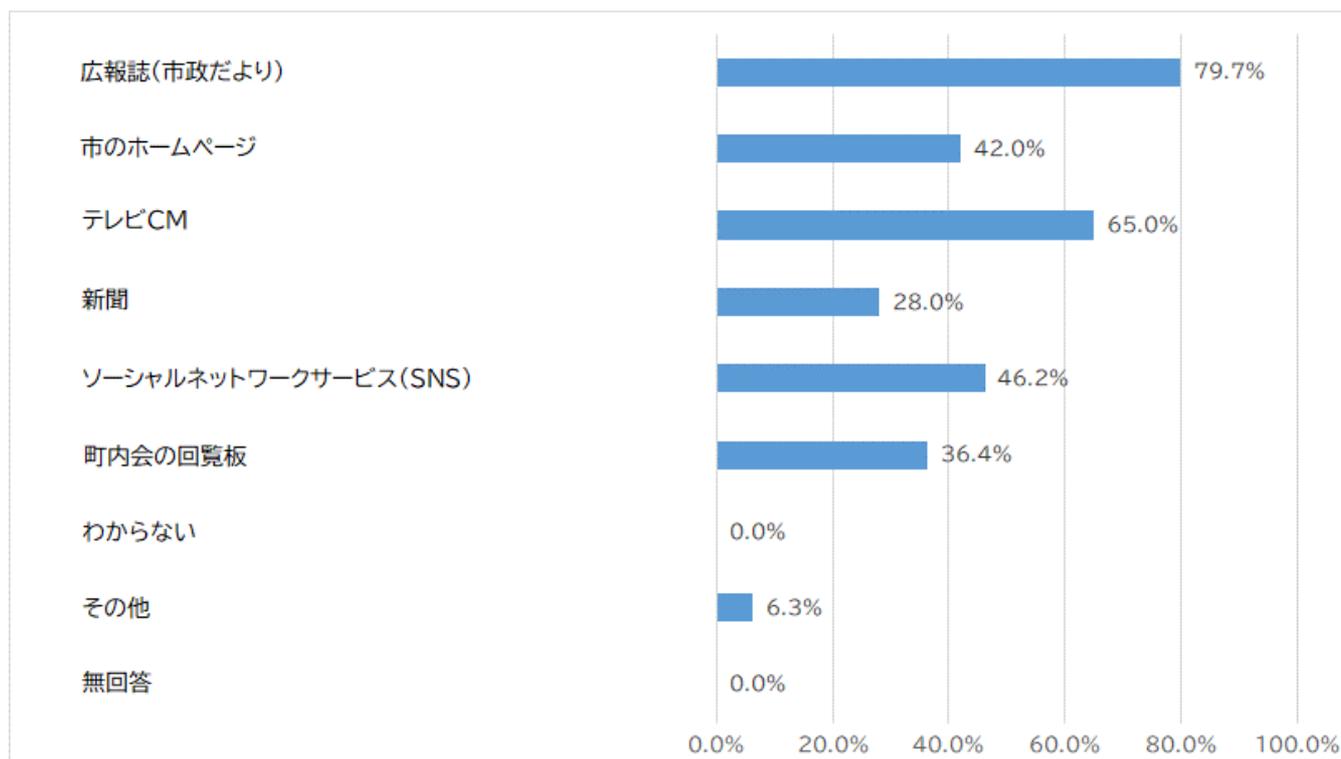
- ・認知症の方やその家族の精神面の相談や支援(カウンセリング等)
- ・認知症の方が1人で行動している際、もしトラブルが起こったらどのようなことをすべきかなど、手段や解決策を一緒に考える。
- ・病院を受診するのを控えたいと思っている方のための支援(相談窓口等)
- ・困りごとを細かく把握してあげることで支援することも変わってくると思う。困りごとを言える、相談できる機会やツールを充実させる事かなと思う。
- ・家族、本人の相談、話し相手、徘徊に対応できる見守り体制、適切な医療、福祉への連携窓口となる。これ以上悪化しないため、悪化を早期発見できるように、認知症の方の集まる活動への参加、情報提供、外出機会をつくるサポート。ただしすべて日頃からの近所付き合い的な関わりが必要だとも思う。認知症となってからは、本人、家族も認められない場合も多く、なかなか利用しづらいと思う。
- ・私は認知症サポーターです。メルマガも購読しています。メルマガの、認知症者の行方不明メールはすごいと思います。必ず読んで自分の、身の回りは探します。そして、発見メールが来ると大変ホッとします。取り組みを続けていただきたいです。
- ・企業や学校と連携して幅広いサービスが提供できるようになる。
- ・認知症である人を共有することで徘徊等の時に知らせるネットワークを作る買い物代行サービス。
- ・経済的にどのくらい負担があるか教えてもらいたい。認知症に対する対応の仕方、介護している家族のストレス、不満、不安などをカウンセリングしてもらいたい。
- ・その人その人で症状は違いますが、迷子になってしまったりする事もあると思うので、困った時にわかるように、見つけた人が家族へ連絡できるアプリを立ち上げたらいいなと思います。
- ・地域のパトロール、相談、買い物や病院受診時の同行サポート。
- ・認知症の程度にもよるが、食事の時は一人にしないで付き添って話し相手になる。家族が希望すれば介護センターの紹介、手続き等の手助けをする。
- ・高齢者の連絡網などがあればよいと思うが、なかなか個人情報の管理などで難しそう。
- ・認知症の人が自宅で生活するための具体的な生活アドバイス(一日のやることチェックリスト作成方法や家族が支援できることのアドバイス?)食材や生活用品の配送(ティッシュの買う頻度等のチェックをしてあげる)
- ・SNS(LINE)等で気軽に相談できる環境があれば助かると思う。
- ・相談窓口。家族に対する支援、買い物、料理のサポート。
- ・手助けの内容と費用、利用できる時間などを個別パンフ等で広報する。
- ・家族が見守る事が出来るうちは、良いけど。進行すると、無理だから介護施設を紹介してほしい。

- ・同じ地域で暮らす者同士だからこそ出来る、一緒に買い物に行くという感覚で、買い物の支援、ゴミ出しの日に、家を出るゴミを一緒に片付けてあげて、ゴミステーションまで持って行くなど、家族内で孤立しないように、地域の人同士のお茶会みたいなものを公民館などで行えば、介護をしている家族の気晴らしの時間を確保しつつ、認知症の人も、家族だけではなく、社会と繋がっている感覚を少しでも感じてもらえるような気がします。
- ・相談窓口をショッピングセンター等にも定期的に設置して、もっと気軽に相談出来るように門戸を拡げると良いと思う。
- ・まだ想像がつかず考えるのが難しいですが、一番は介護している家族の心理的肉体的負担に寄り添って欲しい。終わりが見えない介護から少し離れたり、1人で全部背負わなくて良いのだと思わせて欲しい。
- ・その人の認知症の度合、また家族がどの程度困っているのか耳を傾けてもらいたい。お年寄りの介護は子どもと違いいつまでお世話をすると終わりなのか？未定であり家族も疲れるのが現状です。ショートステイやデイサービス等ありますが、予約等必要であり手続きが面倒だったりします。お世話をしている家族も突如病気になることもあるだろうし、用事だつてできるかもしれない。そのようなとき、子どもの病児保育みたいに(勿論事前に登録は必要ですが)当日利用できる施設があればいいと思います。
- ・家族が自分の時間を過ごせるように、無料または低料金の見守り、自宅に1人で過ごしている認知症の方の家に温度管理や非常時のビデオ通話ができる機械をとりつけるサービス、話し相手になってもらえる。
- ・認知症も程度によってサポートしてほしいことが違っていると思います。軽い場合は支援チームの方のフォローも助かりますね。でも毎日一緒にいて、24時間面倒をみるのが不可能になったとき、施設が程度に応じいろいろあって、家族とも関わっていける支援がほしい。施設によっては、ボケ老人と思って凄いものの言い方や態度をとっているのを見たことがあります。お世話する方の育成にも力をそそいでほしいです。自分がなったときに、そういうひどい扱いをされるのが怖い。
- ・もちろん、認知症になった本人が1番大変だと思うが、その周りの家族もかなり大変な思いをしながら生きていかなければならないと思う。だからこそ、その家族のケアをしてあげることも重要だと思うし、お互いが望むのであれば施設に入るといったことのお手伝いも必要だと思う。
- ・認知症になると家族に迷惑をかけることは仕方がないが、他人に迷惑がかかると、家族の生活が一変する。従って、近くでサポートしてくれて安価な施設が多くできることを望む。
- ・買い物などの家事全般の手伝い。同居家族の相談に乗る。経済的な相談に乗る。市の支援などの広報。
- ・可能であれば近隣の医療機関との連絡を取り合い、サポートを広げるなど。

- ・地域では、まだ隠そうとする雰囲気があるので、地域で支え合うシステムが必要です。町内会長、民生委員、福祉協力員などの研修を制度化して、家族のフォロー体制が大事だと思う。
- ・同居家族の精神的サポート。
- ・認知症の家族を在宅介護するのは、家族にとって大変です。認知症になった家族にどういふふうに接するのが良いのかを教えてくれる仕組みがあるとよい。母が92歳で亡くなって7年がたちますが、正しい接し方を知っていたなら、よかったのになあーと心残りになります。
- ・免許返納制度など。

(認知症の理解促進に向けた広報の方法)

問12 認知症への理解を促進するため、有効と思われる広報の方法を選択してください。



(次ページへ続く)

		回答者数	広報誌 (市政だより)	市のホームページ	テレビCM	新聞	ソーシャルネット ワークサービス (SNS)	町内会の回覧板
全体		143人	79.7%	42.0%	65.0%	28.0%	46.2%	36.4%
性別	男性	65人	76.9%	40.0%	61.5%	20.0%	47.7%	29.2%
	女性	78人	82.1%	43.6%	67.9%	34.6%	44.9%	42.3%
年齢別	10歳代	2人	100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	100.0%
	20歳代	17人	82.4%	58.8%	70.6%	35.3%	47.1%	41.2%
	30歳代	19人	78.9%	42.1%	68.4%	36.8%	57.9%	31.6%
	40歳代	22人	81.8%	45.5%	50.0%	22.7%	54.5%	27.3%
	50歳代	23人	69.6%	30.4%	60.9%	21.7%	56.5%	56.5%
	60歳代	21人	71.4%	38.1%	76.2%	19.0%	38.1%	33.3%
	70歳以上	39人	87.2%	43.6%	64.1%	30.8%	33.3%	28.2%
区別	門司区	16人	87.5%	50.0%	62.5%	43.8%	62.5%	50.0%
	小倉北区	33人	72.7%	45.5%	54.5%	18.2%	45.5%	21.2%
	小倉南区	25人	84.0%	48.0%	76.0%	36.0%	52.0%	36.0%
	若松区	7人	71.4%	14.3%	100.0%	28.6%	14.3%	28.6%
	八幡東区	11人	63.6%	9.1%	63.6%	27.3%	45.5%	72.7%
	八幡西区	41人	90.2%	51.2%	63.4%	26.8%	46.3%	31.7%
	戸畑区	10人	60.0%	20.0%	60.0%	20.0%	30.0%	50.0%

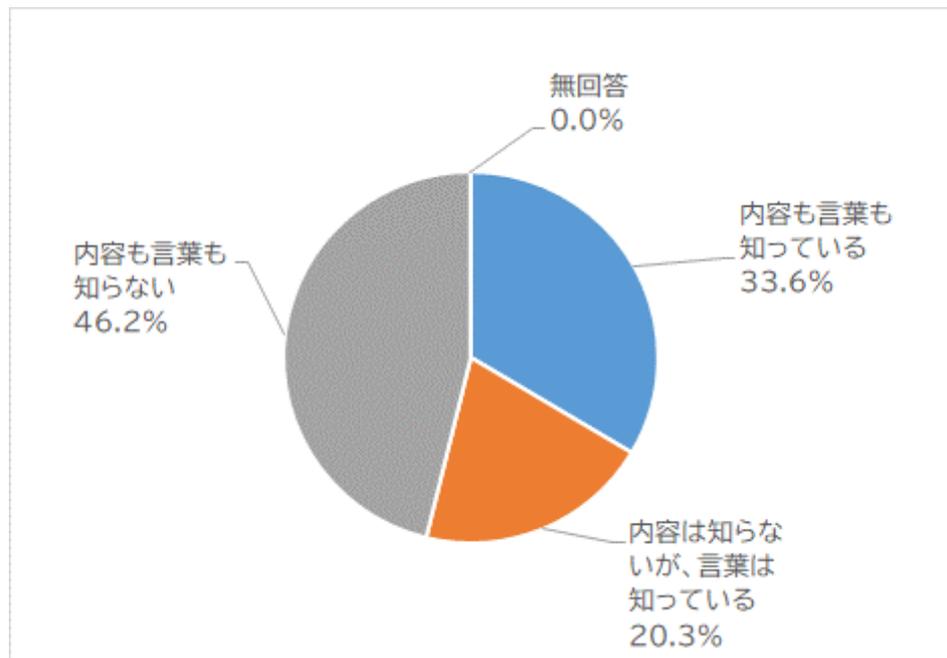
		回答者数	わからない	その他	無回答
全体		143人	0.0%	6.3%	0.0%
性別	男性	65人	0.0%	7.7%	0.0%
	女性	78人	0.0%	5.1%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	0.0%	50.0%	0.0%
	20歳代	17人	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	22人	0.0%	9.1%	0.0%
	50歳代	23人	0.0%	8.7%	0.0%
	60歳代	21人	0.0%	9.5%	0.0%
	70歳以上	39人	0.0%	5.1%	0.0%
区別	門司区	16人	0.0%	6.3%	0.0%
	小倉北区	33人	0.0%	6.1%	0.0%
	小倉南区	25人	0.0%	4.0%	0.0%
	若松区	7人	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11人	0.0%	27.3%	0.0%
	八幡西区	41人	0.0%	2.4%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	10.0%	0.0%

認知症への理解を促進するため、有効と思われる広報の方法としては、「広報誌(市政だより)」が79.7%で最も多く、次いで「テレビCM」が65.0%、「ソーシャルネットワークサービス(SNS)」が46.2%という結果になりました。

健康づくりや介護予防について

(フレイルについて)

問13 フレイルについて知っていますか。



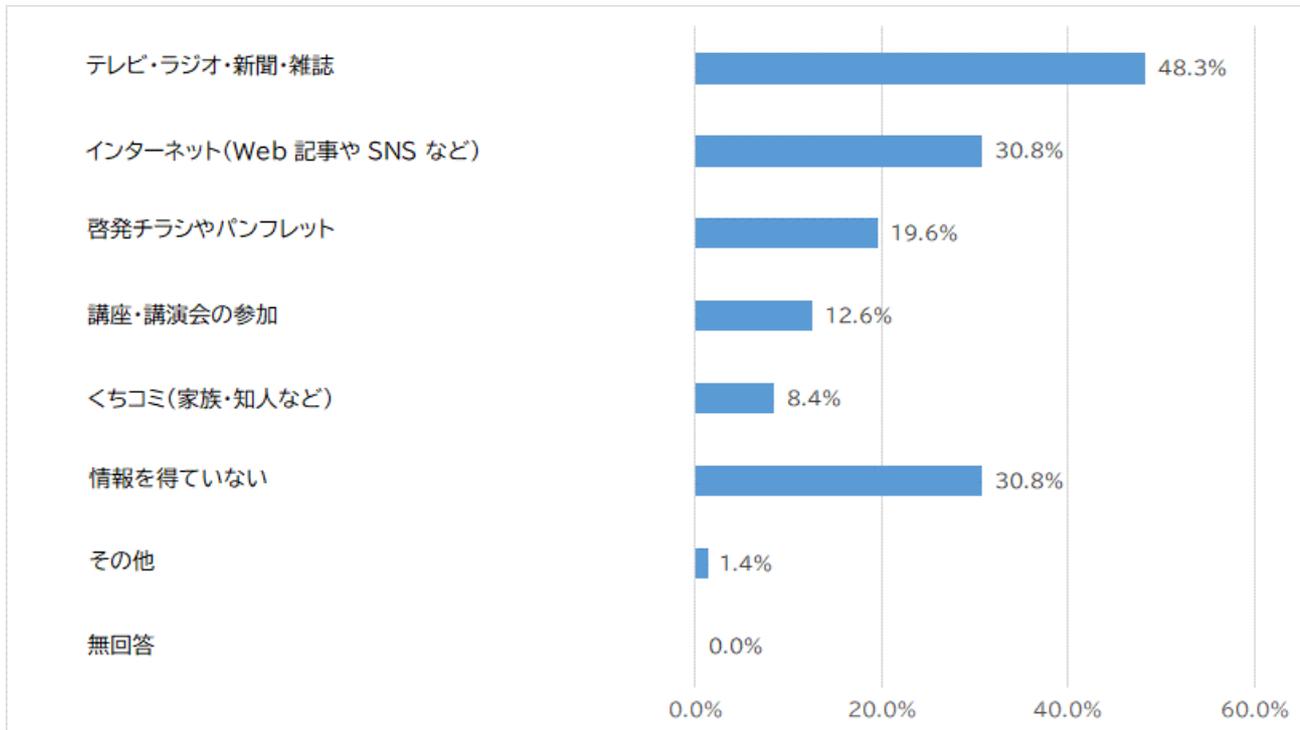
		回答者数	内容も言葉も知っている	内容は知らないが、言葉は知っている	内容も言葉も知らない	無回答
全体		143人	33.6%	20.3%	46.2%	0.0%
性別	男性	65人	32.3%	16.9%	50.8%	0.0%
	女性	78人	34.6%	23.1%	42.3%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	41.2%	5.9%	52.9%	0.0%
	30歳代	19人	31.6%	10.5%	57.9%	0.0%
	40歳代	22人	40.9%	18.2%	40.9%	0.0%
	50歳代	23人	30.4%	8.7%	60.9%	0.0%
	60歳代	21人	19.0%	33.3%	47.6%	0.0%
	70歳以上	39人	35.9%	30.8%	33.3%	0.0%
区別	門司区	16人	18.8%	25.0%	56.3%	0.0%
	小倉北区	33人	30.3%	27.3%	42.4%	0.0%
	小倉南区	25人	40.0%	12.0%	48.0%	0.0%
	若松区	7人	14.3%	42.9%	42.9%	0.0%
	八幡東区	11人	27.3%	27.3%	45.5%	0.0%
	八幡西区	41人	43.9%	17.1%	39.0%	0.0%
	戸畑区	10人	30.0%	0.0%	70.0%	0.0%

フレイルについては、「内容も言葉も知っている」が 33.6%、「内容は知らないが、言葉は知っている」が 20.3%、「内容も言葉も知らない」が 46.2%でした。

「内容も言葉も知っている」は 33.6%にとどまり、認知度が高いとは言えない状況です。

(健康づくりやフレイル予防(介護予防)に関する情報について)

問14 健康づくりや介護予防(フレイル予防)に関する情報を何から得ていますか。
(2つまで回答)



		回答者数	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	インターネット(Web 記事や SNS など)	啓発チラシやパンフレット	講座・講演会の参加	くちコミ(家族・知人など)	情報を得ていない
全体		143人	48.3%	30.8%	19.6%	12.6%	8.4%	30.8%
性別	男性	65人	49.2%	35.4%	16.9%	13.8%	4.6%	27.7%
	女性	78人	47.4%	26.9%	21.8%	11.5%	11.5%	33.3%
年齢別	10歳代	2人	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	52.9%	29.4%	5.9%	17.6%	5.9%	29.4%
	30歳代	19人	47.4%	31.6%	10.5%	0.0%	10.5%	31.6%
	40歳代	22人	54.5%	31.8%	13.6%	9.1%	9.1%	36.4%
	50歳代	23人	39.1%	34.8%	13.0%	8.7%	8.7%	43.5%
	60歳代	21人	23.8%	38.1%	4.8%	0.0%	9.5%	38.1%
	70歳以上	39人	59.0%	23.1%	43.6%	28.2%	7.7%	17.9%
区別	門司区	16人	43.8%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	37.5%
	小倉北区	33人	48.5%	24.2%	30.3%	21.2%	6.1%	27.3%
	小倉南区	25人	48.0%	44.0%	16.0%	8.0%	8.0%	36.0%
	若松区	7人	42.9%	28.6%	28.6%	0.0%	28.6%	14.3%
	八幡東区	11人	63.6%	36.4%	27.3%	9.1%	0.0%	27.3%
	八幡西区	41人	46.3%	22.0%	17.1%	12.2%	4.9%	34.1%
	戸畑区	10人	50.0%	60.0%	0.0%	10.0%	20.0%	20.0%

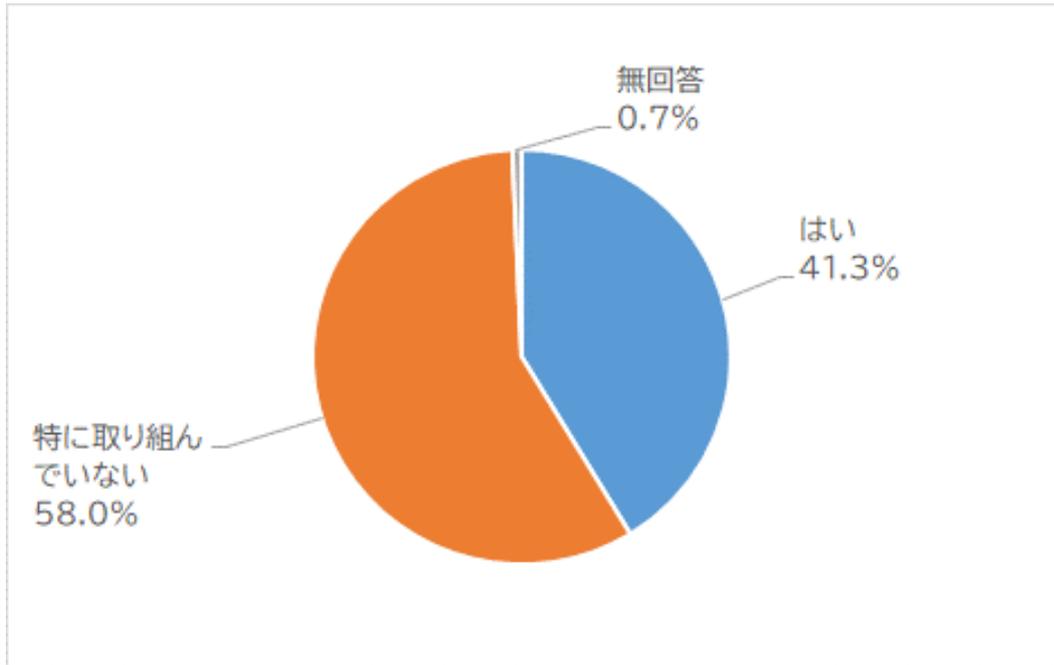
(次ページへ続く)

		回答者数	その他	無回答
	全体	143人	1.4%	0.0%
性別	男性	65人	0.0%	0.0%
	女性	78人	2.6%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	5.3%	0.0%
	40歳代	22人	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	0.0%	0.0%
	70歳以上	39人	2.6%	0.0%
区別	門司区	16人	0.0%	0.0%
	小倉北区	33人	0.0%	0.0%
	小倉南区	25人	0.0%	0.0%
	若松区	7人	14.3%	0.0%
	八幡東区	11人	0.0%	0.0%
	八幡西区	41人	2.4%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	0.0%

健康づくりや介護予防(フレイル予防)に関する情報を何から得ているかについては、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が最も多く48.3%、次いで同率で「インターネット(Web記事や SNS など)」と「情報を得ていない」が30.8%、「啓発チラシやパンフレット」が19.6%という結果になりました。

(健康づくり(フレイル予防を含む)の取り組みについて)

問15 健康づくり(フレイル予防を含む)に取り組んでいますか。



		回答者数	はい	特に取り組んでいない	無回答
全体		143人	41.3%	58.0%	0.7%
性別	男性	65人	36.9%	61.5%	1.5%
	女性	78人	44.9%	55.1%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	50.0%	50.0%	0.0%
	20歳代	17人	35.3%	64.7%	0.0%
	30歳代	19人	36.8%	63.2%	0.0%
	40歳代	22人	50.0%	50.0%	0.0%
	50歳代	23人	26.1%	73.9%	0.0%
	60歳代	21人	28.6%	71.4%	0.0%
	70歳以上	39人	56.4%	41.0%	2.6%
区別	門司区	16人	31.3%	68.8%	0.0%
	小倉北区	33人	39.4%	60.6%	0.0%
	小倉南区	25人	44.0%	56.0%	0.0%
	若松区	7人	71.4%	28.6%	0.0%
	八幡東区	11人	54.5%	36.4%	9.1%
	八幡西区	41人	36.6%	63.4%	0.0%
	戸畑区	10人	40.0%	60.0%	0.0%

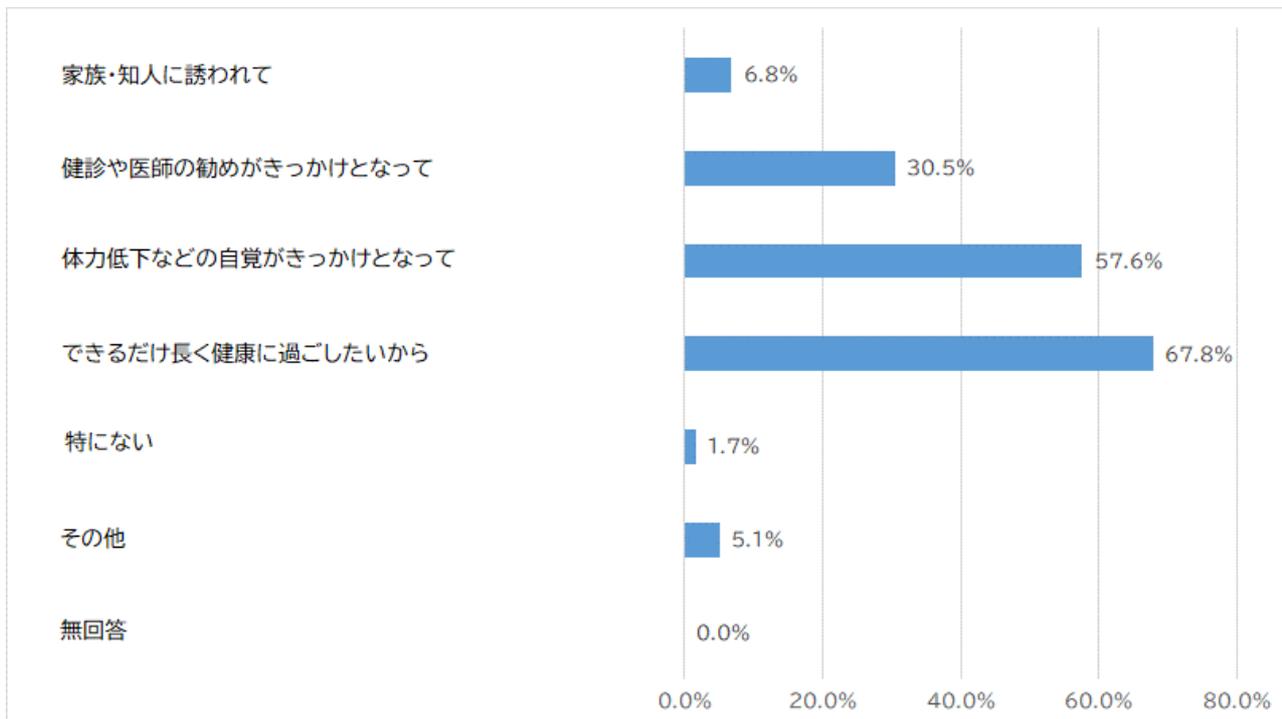
健康づくり(フレイル予防を含む)に取り組んでいるかどうかについては、「はい」が41.3%、「特に取り組んでいない」が58.0%でした。

男女別では、取り組みをしている方が、男性 36.9%、女性 44.9%となり、女性のほうが多いことが分かりました。

また年代別では、70歳以上の方の56.4%が取り組んでおり、最も高い割合になりました。

<問15で「はい」と回答された方にお尋ねします。>

問 16 健康づくりやフレイル予防(介護予防)に取り組んだきっかけは何ですか。
(2つまで回答)



		回答者数	家族・知人に誘われて	健診や医師の勧めがきっかけとなって	体力低下などの自覚がきっかけとなって	できるだけ長く健康に過ごしたいから	特にない
全体		59人	6.8%	30.5%	57.6%	67.8%	1.7%
性別	男性	24人	4.2%	33.3%	66.7%	66.7%	4.2%
	女性	35人	8.6%	28.6%	51.4%	68.6%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	6人	16.7%	16.7%	33.3%	100.0%	0.0%
	30歳代	7人	0.0%	14.3%	71.4%	85.7%	0.0%
	40歳代	11人	0.0%	36.4%	63.6%	45.5%	0.0%
	50歳代	6人	16.7%	33.3%	33.3%	83.3%	0.0%
	60歳代	6人	0.0%	50.0%	66.7%	33.3%	16.7%
	70歳以上	22人	9.1%	31.8%	59.1%	68.2%	0.0%
区別	門司区	5人	0.0%	60.0%	20.0%	80.0%	0.0%
	小倉北区	13人	7.7%	30.8%	69.2%	69.2%	0.0%
	小倉南区	11人	0.0%	18.2%	63.6%	63.6%	9.1%
	若松区	5人	0.0%	20.0%	60.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	6人	0.0%	50.0%	66.7%	50.0%	0.0%
	八幡西区	15人	20.0%	33.3%	46.7%	66.7%	0.0%
	戸畑区	4人	0.0%	0.0%	75.0%	50.0%	0.0%

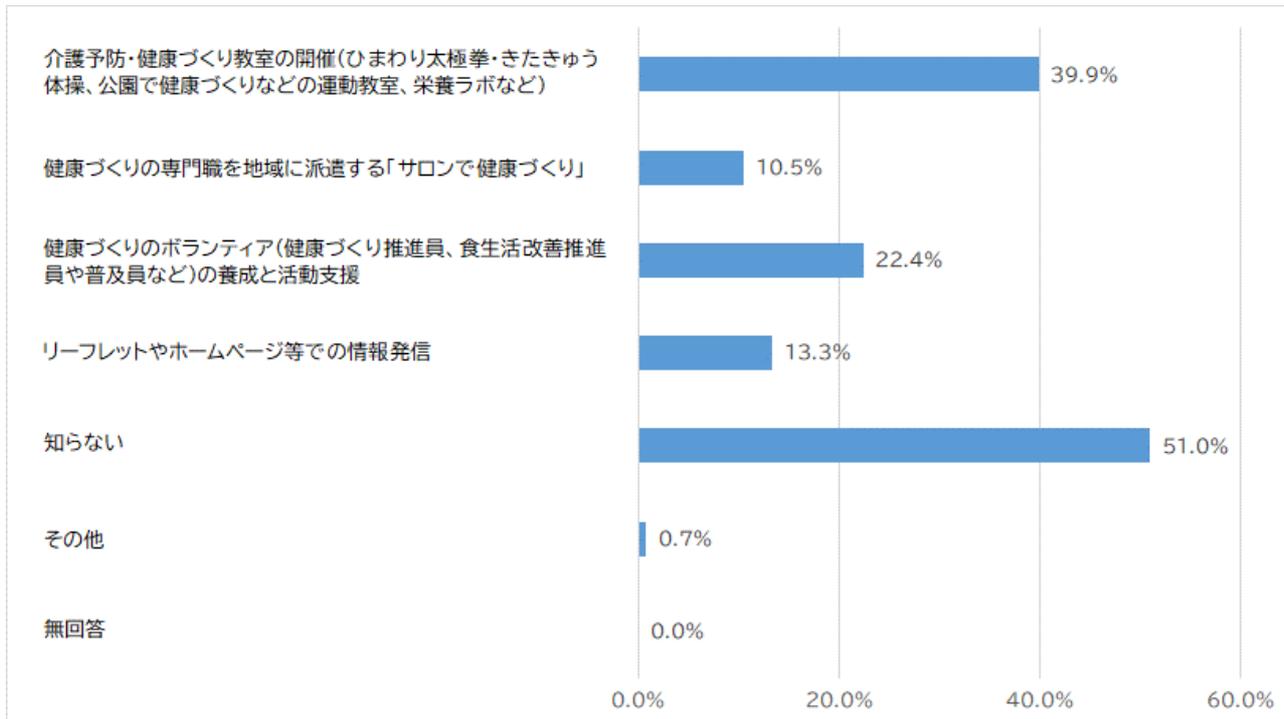
(次ページへ続く)

		回答者数	その他	無回答
全体		59人	5.1%	0.0%
性別	男性	24人	0.0%	0.0%
	女性	35人	8.6%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%
	20歳代	6人	0.0%	0.0%
	30歳代	7人	0.0%	0.0%
	40歳代	11人	9.1%	0.0%
	50歳代	6人	0.0%	0.0%
	60歳代	6人	16.7%	0.0%
	70歳代以上	22人	4.5%	0.0%
区別	門司区	5人	0.0%	0.0%
	小倉北区	13人	0.0%	0.0%
	小倉南区	11人	0.0%	0.0%
	若松区	5人	20.0%	0.0%
	八幡東区	6人	16.7%	0.0%
	八幡西区	15人	0.0%	0.0%
	戸畑区	4人	25.0%	0.0%

健康づくりやフレイル予防(介護予防)に取り組んだきっかけについては、「できるだけ長く健康に過ごしたいから」が最も多く 67.8%、次いで「体力低下などの自覚がきっかけとなって」が 57.6%、「健診や医師の勧めがきっかけとなって」が 30.5%でした。

(市が行っているフレイル予防(介護予防)事業について)

問17 北九州市が行っているフレイル予防(介護予防)事業で、知っているものはありますか。(複数回答可)



		回答者数	介護予防・健康づくり教室の開催(ひまわり太極拳・きたきゅう体操、公園で健康づくりなどの運動教室、栄養ラボなど)	健康づくりの専門職を地域に派遣する「サロンで健康づくり」	健康づくりのボランティア(健康づくり推進員、食生活改善推進員や普及員など)の養成と活動支援	リーフレットやホームページ等での情報発信	知らない
全体		143人	39.9%	10.5%	22.4%	13.3%	51.0%
性別	男性	65人	36.9%	7.7%	18.5%	9.2%	53.8%
	女性	78人	42.3%	12.8%	25.6%	16.7%	48.7%
年齢別	10歳代	2人	50.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%
	20歳代	17人	23.5%	5.9%	23.5%	5.9%	64.7%
	30歳代	19人	42.1%	26.3%	21.1%	15.8%	47.4%
	40歳代	22人	45.5%	9.1%	9.1%	9.1%	50.0%
	50歳代	23人	26.1%	8.7%	13.0%	8.7%	69.6%
	60歳代	21人	38.1%	9.5%	23.8%	4.8%	52.4%
	70歳以上	39人	51.3%	7.7%	30.8%	23.1%	38.5%
区別	門司区	16人	31.3%	12.5%	25.0%	12.5%	62.5%
	小倉北区	33人	48.5%	9.1%	27.3%	9.1%	42.4%
	小倉南区	25人	48.0%	8.0%	12.0%	12.0%	48.0%
	若松区	7人	28.6%	14.3%	28.6%	14.3%	57.1%
	八幡東区	11人	27.3%	9.1%	36.4%	18.2%	54.5%
	八幡西区	41人	34.1%	12.2%	19.5%	14.6%	53.7%
	戸畑区	10人	50.0%	10.0%	20.0%	20.0%	50.0%

(次ページへ続く)

		回答者数	その他	無回答
全体		143人	0.7%	0.0%
性別	男性	65人	1.5%	0.0%
	女性	78人	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	2人	0.0%	0.0%
	20歳代	17人	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	5.3%	0.0%
	40歳代	22人	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	0.0%	0.0%
	70歳以上	39人	0.0%	0.0%
区別	門司区	16人	0.0%	0.0%
	小倉北区	33人	0.0%	0.0%
	小倉南区	25人	4.0%	0.0%
	若松区	7人	0.0%	0.0%
	八幡東区	11人	0.0%	0.0%
	八幡西区	41人	0.0%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	0.0%

北九州市が行っているフレイル予防(介護予防)事業で、知っているものについては、「知らない」が最も多く 51.0%、次いで「介護予防・健康づくり教室の開催」が 39.9%、「健康づくりのボランティアの養成と活動支援」が 22.4%となりました。
「知らない」と答えた方が 51.0%と過半数を超え、認知度が低い状況です。

問18 その他、認知症支援・介護予防に関するご意見等がございましたらご記入ください。

・今年1月、93歳の母を看取ったが、母は1人で何でもしていましたので、実際、認知支援・介護予防をそれほど必要としなかった。しかし最後、いざいよいよ必要となった時慌てた。普段からどういう制度があるか把握しておく必要があるとつくづく感じた。そのためには市政だより等でもっと制度団体等、情報を提供して欲しい。

・認知症支援においては、まだまだ理解されていない状況があるかと思われまますので、以上にPR等をお願い致します。

・認知症と言っても①入口の人から②徐々に進行③周囲の方のお世話になる④施設に入る段階あり。この進行具合からして設問にやや答えづらいところがありました。

1. これからも“老々介護”は基本、高齢者はパワーもお金も持っています。最近はやや気な年寄りが増えていますが残念です。勘違いをしている老人が多いようです。認知症への理解、気持の持ちよう、“意識”が誠に大切と考える。老化と共に誰もが患う「高齢社会特有の時代病症、そう日常の老い」であり、それに少子化が拍車をかけている状況。誰もが直面し、避けて通れない難題です。この機に長生きの良し悪しも問うていく必要があるのでは。人生100年というフレーズよく考えないと。
2. 北九州は“高齢者の先進的な街”であれ。こういう街があってもいい。大企業や若者を誘致するには膨大な負担を要し、反面メリットは乏しく、その効果はいくらかけ声を掛けても、あっという間に消える。日本中同じことを繰り返している。
3. この10年、取組み次第では、都市部(東京・名古屋・大阪)から定年前後の人々が、大挙して高齢者の街(安く終の棲家が入手できる、適当な勤め先がある、健康面の手当が充実しているなど)に押し寄せる。安く・安心して・安全に暮らせる街が高齢者の価値基準になるのでは。

・市民センターでの講座等を利用すると良いと思いますが、なかなか知られていないようです。認知症サポーターの存在を初めて知ったのですが、民生委員のように地域別に何人いるか知りたいです。家族の方への支援を手厚くしてほしいと考えます。

・出来るだけ講座を受けたり、日々家に閉じこもる事がない様にしているが、自分がこういう講座や教室に出ていけない人の取り組みを考えてほしい。こういう人は福祉協力員として訪問しても面談も嫌がる方が多い。

・何も周知できていないので、もっと発信して頂いてまずは周知していく事が大切だと思います。

・年長者の方がよく訪問される・目に入る可能性がある病院や施設、公共交通機関の駅やバス停、車内などでの広報、家族向けにはインターネットやSNSなどでの情報発信を積極的にすると良いと思います。年長者の方でもLINEはされている方が多いので、世代に合わせた広報活動ができると良いかと思えます。

・たぶん色々な形で情報を発信されているのだと思いますが認知症に関しては、私が見受ける情報は少ない様に思います。介護施設などの情報は多くありますが。

・認知症や介護について、あまり関心のない人、年代がいると思う(どことなく他人事…)

社会全体が認知度、関心を高めるためにも、啓発活動は不可欠だと思う。人が集まる場所(地域のイベント、市民センター、スーパー、商店街など)で、定期的に積極的な啓発活動を行なう。

・認知症支援や介護予防等のチラシを各家庭のポストに入れ知って頂くのも良いのではと思いました。

・残念ながら、今の行政側からの発信方法では、ほんのごく一部行政の方とその周辺だけで認知され、自己満足しているようにしか感じられません。高齢者比率の高い北九州で、いま？モニターアンケートで聞いている辺り行政側の本気度を疑います。他の方からも厳しい意見がたくさんでると思います。是非とも真剣に受け止めて頂く事をお願い申し上げます。もし、個別に聞いて頂けるなら、まだまだありますので。ご連絡をお待ち致しております。

・介護予防はますます重要になってくると思いますが、市の取り組みはあまり知りません。かかりつけを持たない、病院に行きたがらない、元々持病がなく暮らせている方にとっては情報や支援を受けるチャンスがぐっと減ると思います。地域とも交流がなく地域の集まりにも参加しなくて家にずっとおられる方にいかにして、情報を届けるか、なかなか悩みどころではないかと思います。かかりつけ医から地域包括へもっとスムーズに情報を提供できる仕組みがあればいいと思います。

・フレイルという言葉すら知らなかった。支援や介護に縁遠いからなのか？正直、支援や介護を必要としないとこの手の情報がいらないので何とも言えない。

・今、主人と二人暮らしです。主人の足腰が弱っています。病院以外で気軽に足腰のリハビリの指導を受けられる情報が欲しいです。

・認知症や要介護状態になる前に、予防事業や相談先、利用できる制度の周知徹底が必要。もっと若い世代の情報発信が必要。家族だけでの対応は難しいと思う。日中だけでなく特に夜間や日曜日祝日への支援が不足していると思う。介護施設の充実、数を増やす。予防のためには、体力低下を防ぎ、できることは自分で行うようにする支援も必要。何でも手伝えれば良いわけではないことを周囲の人が理解して関わる必要があると思う。

・運動による体力作り、食事はたんぱく質を含む食品の摂取。地域での活動、人とコミュニケーションを頻繁にとる。個々が持っている特技の活用をする。相手をひていすることなくじっくり傾聴する。前述した通り、週 1 回でも個々にお話しできると自己肯定感が増すのではと思っています。

・予防になるかはわかりませんが、私は市民センターによく行きます。そこでパンフレットを見てイベントに参加します。又、市政だよりを見ています。やはり見る事が大事だと思います。外出する事も予防につながるかもしれません。

・ほとんどの人は介護予防と言われてもどう動けばよいか、わからないと思うので、まずは周知する事が大事。チラシやパンフレットを届けて案内するのが早い。それと、直接対話しないとなかなか届かないと思う。

・個人に自覚が一番。個々人が積極的に健康寿命を延ばすことが当該本人はもとより、家族や周囲の関係者がハッピーになることを周知徹底させることが重要。(結果として、市政の財政の健全化に貢献することも含む)長い目では「健康診断の徹底」など。例 歯科健診の結果、口腔は格段に向上している。

・介護予防に関して、生活支援型通所サービスで別に枠を設けて地域の方も都度料金で利用できるなどはいかがでしょう。

・福祉に携わる仕事をしていますが、フレイルについて何も知りませんでした。今回のアンケートをきっかけにフレイルについて詳しく知りたいと思いました。

・予防が大切認知症や介護を必要とする状態になる前に、予防に力を入れることが大切だと思います。早期発見・診断が必要認知症の初期症状を見逃さず、早期に発見・診断することが大切です。早期に発見することで、治療や介護計画の立案などができるため、より良いケアを提供することができると思います。専門的な支援が必要認知症や介護を必要とする人には、専門的な支援が必要です。医師や看護師、ケアマネージャーなどが、適切なケアやサポートを提供することが重要だと思います。人間らしい生活を支援する認知症や介護を必要とする人には、人間らしい生活を送ることができるように支援することが大切です。個人の希望や好みに合わせた活動や趣味を取り入れたり、家族や地域の人々と交流を持たせたりすることで、生活の質を向上させることができると思います。

・簡単にできる介護予防の体操や運動を市政だより等でもっと掲載したらよいかと思います。

・特定健診のように認知症健診を年 1 回実施すれば軽い内に見つかり進行を抑えられる場合もあるのではないのでしょうか？特定健診はむしろなくてもいい気がします。高齢者は結構かかりつけの病院で特定健診より詳しい健診を受けている人が多いみたいです

・認知症支援はいい施設を作ってほしい。介護予防に関しては、市民センターなどに行かないとほとんど知られていないと思います。

・認知症予防やフレイル予防に関してもコロナ禍の影響で約 3 年行われていない状況でした。コロナが明けた今からできる事を行政や医療、介護事業者そして地域と協力し聞き取りなどの調査をお願いしたい。また、核家族化が急激に進んでおり、独居高齢者が多くみられます。貧富の差も多くみられ、安心して生活できる公営住宅の整備や権利擁護、福祉事務所にたいする相談がより身近に行えるよう整備をお願いしたい。

・定年退職者に対する認知症・介護予防講習の推進

→退職後の男性は社会との接点が減り引きこもりになりやすい。定年退職後はどの仕事も給与が安いため、職に就くことを避ける傾向もある。そのため退職者に対して「お金のため」ではなく「健康のため」に働くという意識に変えてもらう必要があると感じる。退職

を機に認知症・介護予防について考えて頂く講演会又は動画に触れて頂けるように促すため、各企業にも協力してもらえたら良いのではないかと考える。動画は退職者が興味を示すようなタレントさんに依頼して動画を作成するなどの工夫は必要か？

・公園などで太極拳を無料で教えてくれる取り組みなどあれば。

・運動教室など参加してみるまでの勇気と敷居の高さ さえ、乗り越えればなんと言う事もないのですが…。介護予防にトランポリン教室に通っています。

・認知症になっている…という現実を家族として見守る中で気付けない状況でした。もっと経験談を広め、誰でもかかりうる病気である事を周知して欲しい。いつの間にか家族だけの悩みになってしまうのでかかりつけ医と行政(地域包括支援センター等)の結びつきを強めることで地域の情報共有もしてもらいたい。また、市民が気軽に相談できる LIVE 相談、メール、TEL などの場があると良いと感じている。

・北九州市は高齢化で地域の活動も縮小傾向にあります。調整区域も多く、こどもが少ない事もあります。国の子育て支援問題なども取り組まれています。今後すぐに直面するのが高齢化問題です。家族が認知症じゃないかと自覚した時点で、気軽に相談出来て介入してくれる手段が必要だと考えています。本人が認知機能低下となっても、自覚がないまま過ごすことが多い事で家族の負担が増え困難な状況になる事も多々あります。まず発見や自覚するのは周囲であり、「ここに相談してみようか。」と思える窓口とその窓口から継続して支援できる体制への連携があつてこそだと思われま。

・家族が毎日介護に携わると、親への暴言、言葉遣いが酷くなる、私も何度も繰り返し話す親にイライラして暴言を吐き捨てたことがありました。自分は認知になる前に介護施設等に入所できればと強く願います、ギリギリまではどうにかしたいとも思いますし、タイミングが難しく感じます(資産があれば話しが早いのでしょうか)

・デイサービスの支援を受けていたが、あまり効果的ではなかったので中止した！その後、自分で考えて色々なことを実施しております。整骨院に通い痛みを取ったり動きを良くしてもらったりする！トレーニングセンターへ行き 効果的なマシンを自分で選んで実施する。頭の体操としてはいろいろな講座を選んで参加するようにしています。介護支援の内容がもう少し変わるのであれば参加したいと思いますが…。介護支援のあり方を色々な人を集めて検討するのはいかがでしょうか？

・年をとると外出することが億劫になります。特に交通機関(バス)が減便されて出かける機会が減ると認知機能や身体機能が衰えると思います。高齢者が出かけやすい町づくりをお願いしたいです。

・介護やフレイル予防の講座を各地の市民センターで多く開いて欲しいです。現在は回数が少ないと思います。

・市民センターで講座・講演会を開催してほしい。小中学校で出前授業を開催すれば子ども達にとっても認知症や介護のことが身近に感じられると思う。

- ・認知症の家族を対象にしたセミナーや集まりがあると介護の参考になる気がする。
- ・認知症の徘徊予防などで、一定以上の年齢者にキーホルダーに似せた GPS を配布してはどうでしょうか？
- ・問 11 に回答した通り、他市と比較して対応力の改善を望みます。＜追記＞モニターアンケートの年間テーマはわかるが、テーマ以外に市政に対する提言等の項目があってもよいのでは？市長がかわり「行政改革推進事業」を立ち上げたのであれば、150 名のモニターや広く市民の意見を聴く場があってもよいと思います。市行政の横の連携がよく分からない。窓口で相談行くと「他に課に聞いて欲しい」等の回答が多く、ワンストップの対応となっていないように思われる。
- ・認知症に近い人は身近にいるが、認知症と決定づける人はいないので、具体策が浮かばない。
- ・あらゆる所で色々なサポートの人がたくさんいると思いますが、まず、第一に 1 人で暮らす老人が認知症になった時、誰が気付くのでしょうか？自覚症状があって自分で誰かに相談に行けたらいいのですが？そして自分がちょっとおかしいかな？と思ったとき、気軽に病院に行けたらと思います。(風邪かな？くらいの気持ちで)何となくハードルが高い気がします。
- ・認知症の人を特別視して距離を置くのではなく、地域の一人として軽い声掛けなどで親しさをあらわす。孤立させない。
- ・地域の市民センターを活用し誰でも参加しやすい内容のものを提供していただくと参加しやすいと思います。町内会のネットワークづくりも大切だと思います。情報提供は回覧板を使ったりするなど1人1人にいきわたるようにしてほしいです。時には、行政・社協・ボランティア・町内等が同じテーブルで話す機会も必要だと思います。まずは自分自身、上手に年を重ねていきたいと思っています。
- ・ひとり住まいになると自分から SOS を出せなくなる人にきめ細やかにサポートが求められます。サポートする人の勉強会をしっかりとやらないと、家の中に知らない人が入ってくるのが嫌だといいます。意識の問題ですが、難しさもあり課題です。まず健康維持することを第一に地域活動に力を入れるしかないと思います。孤立させないように交流することが一番と思います。
- ・支援というよりご近所で助け合うのがよいと思う。
- ・問 11 で書きましたが、経済的に苦しくなる事が一番大変だと思いますので、安価にて利用できる施設を造って下さい。
- ・「老人」と「若い人」たちと区別するのではなく、お互いに助け合っていける町作りが必要だと思う。若い人だってこれから行く道だし、老人も長いこと生活してきた知恵を伝えることをたくさん持っていると思う。持続可能な社会を作るためには重要なことと考える。今日「用事がある」今日「行くところがある」との目的から、人との交流のため一年に一回でよいので 2 千円位楽しみ代が出ると、老人もイキイキするのではないかと思う。(慰労金)目標が

あれば元気でいられると思う。

・この認知症に関する取り組みについては、何か市民の多くの人たちが”当たり前”ですよ！となる日が早く来るようにしたいものです。

・認知症患者が家族の中にいるとしたら、色々な面での気付きについて早期発見し、初期のうちに対処の方法をまず家族間での話し合いが大切だと思います。家族より家の外に発信して、ご本人に傷付けない様対処していくことが重要だと思います。また専門医を訪ね、これ以上悪化しないよう皆で考えていくことも必要だと思います。日頃より認知症にならないよう心身共に健康に過ごしていく努力をしないといけないと思います。読書や新聞、雑誌を読んだり、他社とのふれ合いの場を持ったり、他社と共に自然に親しみながら、家族、地域の人、社会の人皆でお互い個人個人を大切に思い、高齢になっても社会性を身につけつつ、心豊かに暮らしたいものです。小鳥は早く起きさえずり花は毎年美しく咲いて人間を楽しませてくれます。私達人間はゴミ一つでも拾い、美しい住み心地良い町にすることも他の動植物に負けない心意気を持ちたいです。

・介護保険サービスだけでは足りない日常生活の支援や、支援が届かない介護難民もいるようで、介護保険の下を支える組織があったらいいと思う。という意見が新聞記事にありました。

・認知症支援、介護予防に限った話ではありませんが、身近な人や自分自身に関わる状況にならなければ、大半の人は興味や関心を持つ事はなく、興味や関心のない人に講習会などを開いても多少の効果はあるかもしれませんが、ほとんどはその場限りで元の生活に戻れば我関せずなのが現代日本だと思います。そもそも地域との繋がりや組織内の繋がり希薄化が進んでいる昨今、隣人はご近所さんではなく、関わり薄い社員、同級生は仲間ではなく他人なのです。ご近所さんや仲間が困っていれば手を差し伸べようと思うのが自然な事だと思いますが、他人に対し何か行動しようと思う人がどれだけいるのでしょうか？また、良かれと思って行動しても有難迷惑と思われる事もあります。勿論、認知症や介護に対する知識を得る場所があるというのは重要な事ではありますが、希薄化している地域の繋がりを強化し、他人を他人じゃなくしていく事が優先事項だと思います。

・コロナが少し落ち着いてきて、当事者の家族や市の方々、医療関係の方が支援やサポートしやすくなって、認知症の方や介護を受けている方々がより過ごしやすくなったらいなと願っています。

・1 相談窓口や専門的医療機関の充実 2 認知症の初期において、介護保険が使えない場合の支援 3 北九州健康アプリ「GO!GO!あるくっちゃ KitaQ」普及の為の一層の活動と特典の充実

・認知症支援について認知症になってしまった本人より家族を支えてあげられる支援が充実すると思います。

・支援、予防とは少し違うかもしれませんが介護の携わるお仕事されている方の負担も考え

るべきだと思っています。仕事の割に給料が少なく、スタッフも少なくストレスも増え、それが事故にもつながると思います。実際私の母も施設で骨折し、手術までする事になりました。

・他界した父が認知症でした。その時は私を含め家族3人で支えましたが、もし母か私が発症した場合支える家族は少なく非常に不安は感じています。

・介護士さんの給与を含め待遇の改善を早急に行い介護士さんの人員を増やしてください。

・自分の経験からですが、北九州市は老人率日本一もあってか、ソーシャルワーカーさんやヘルパーさんなど、みなさん親切で質の高いサービスを提供してくれます。時々介護施設での事件などニュースで目にしますが、北九州市の介護に携わる方々に接していたら、そんなことが起こる施設もあるのかと信じられないくらい皆さん親切です。北九州市は介護の街としてもイケるんじゃないかと思う。

・認知症支援・介護支援の施設で働く人の給料が安いと思う。きつい仕事であるため、若い人達の働き安い職場として成り立つためにも、今より 20%程度は上げるべきと思う。そのために「増税することはやむ無し」と考える。

・これらの支援や予防が、地域の交流や孤立化を防ぐ事柄になるのは承知しております。高齢者や対象者だけでなく、子どもや関わりたいと思っている人たちとも交わりが増えると、未来の知識や予備知識にもなるし単純に交流が増えて良いのかなと思いました。参加するハードルが低いとより良いのかなと感じました。

・本当の家族のように接し、話しかけることが大事だと考えます。

・まだ若い世代はピンとこないし、自分たちの仕事や子育ての事でいっぱい입니다。地域の交流がない時代だからこそ、町内会の関わりが強くなっていくといいなと思います。地域の行事に参加しても顔見知りの人だけが話す→なんか行きにくい→結果、もう行かない、という感じです。新参者というか、居づらいです。

・核家族化、高齢化により、孤独・孤立老人が増加していくことで、認知症や介護が必要となる人が増える。孤独・孤立老人を減らすために、希薄となってきた地域社会での人と人の繋がりを再構築していくことで、まずは認知症や介護状態にならない社会作りが必要である。スーパーなどがなくなった地域で、週1回朝市を開催している地域など先進的な取り組みを参考に、地域にあった取り組み(参加が容易、楽しい、有益)を行政、自治体が協力して考える。

・一人暮らしの人が社会と繋がった状態で居られるようにしてほしい。早期発見、周りとの協力のため。

・手探りでやって行って欲しい。

・とにかく、認知症の家族がいたら、すごく大変。治療薬がほしい。

・先ず地域の実態把握が大事だと思う。今、隣りの人との繋がりが希薄になっているので、地域のネットワーク、絆を深めていく必要があると思う。そのためには、行政の支援が必要で、地域のリーダー作りから初めて、輪を広げて行く。

- ・認知症のさまざまな状況をまずは知る事が大事。
- ・これから更に進む高齢化社会において大きな課題だと思う。少子化も問題だが、呆けないように健康的に長く働いていけるような政策が必要だと思う。
- ・地域活動者の育成。

IV 全体考察

北九州市の認知症高齢者等は約4万人と推計されており、これは高齢者の7人に1人の割合で認知症の症状がみられることとなります。

今後も高齢化の進展に伴い、認知症高齢者等はさらに増えることが見込まれており、認知症に関する取組みは喫緊の課題となっています。

本市では、これまで、平成27年3月に「北九州市認知症施策推進計画(通称:北九州市版オレンジプラン)」を策定し、「市民一人ひとりが、認知症を正しく理解し、誰もが安心して暮らせる『みんなで支え合うまち』」を基本理念に総合的な認知症施策を推進してきました。

平成30年3月にはこれまでの北九州市版オレンジプランを改訂し、①市民一人ひとりが認知症のことを正しく理解する(普及啓発)、②認知症の人やその家族を支える体制を構築する(支援体制)、③認知症の人やその家族の視点や意向を尊重する(意向尊重)を基本方針として、認知症施策を推進してきました。

また、令和3年3月に再度改訂を行い、基本的な考え方は前プランを引き継ぎながら、①地域共生社会の実現、②本人発信の支援、③新しい生活様式への対応といった3つの視点を新たに設け、さらなる推進に取り組んでいるところです。

今回のアンケートは、今後の本市の認知症支援・介護予防に関連する事業をさらに推進していくために実施したものです。

【北九州市の高齢化について】

政令指定都市の中で、北九州市が最も高齢化率が高いことについて「知っている」が79.0%であり、40歳代以上の年代では80%以上が「知っている」と回答しており、非常に認知度が高いことがわかりました。

【認知症について】

認知症の人と接したことがあるかと尋ねたところ、「接したことがある」と71.3%の人が回答しており、「家族の中に認知症の人がいる(いた)」(50.0%)、「親戚の中に認知症の人がいる(いた)」(29.4%)と、79.4%の人が親族に認知症の人がいる(いた)回答しており、認知症の人が身近に存在することが伺えます。

若年性認知症については「年齢に関係なく誰でもかかりうる病気である」ことについて、「知っている」(93.0%)、「若年性認知症という言葉聞いたことがある」(94.4%)と回答しており、認知症・若年性認知症ともに非常に高い認知度であることがわかりました。

認知症に対するイメージについて尋ねたところ、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」(51.0%)、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」(30.8%)と回答しており、認知症になった場合には 80%以上の人々が医療・介護のサポートや介護施設に入ることが必要であると認識していることがわかりました。

認知症に対する不安については、「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか」(77.6%)、「買い物や料理、車の運転など、これまでできたことができなくなるのではないか」(72.7%)、「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」(55.2%)と回答しており、家族や周囲の人に負担や迷惑をかけることを不安に感じている人が多いことがわかりました。

認知症に関する相談窓口について知っているか尋ねたところ、「ものわすれ外来」(64.3%)、「かかりつけ医」(55.9%)という結果となり、一方で「どこに相談してよいかわからない」が(11.9%)と一定割合の回答があることから、引き続き周知啓発の取り組みが必要であると考えられます。

認知症サポーターについては、「知っている」(27.3%)で、「知らない」(72.7%)と認知度が低いことがわかりました。年代別では、「知っている」が 10 歳代で 0.0%、20 歳代で 17.6%という結果となり、若年層で特に認知度が低いことがわかりました。

認知症サポーターの養成数は、令和5年2月に10万人を達成しましたが、認知症サポーター自体の認知度が低いことから、周知・啓発に今後より一層取り組む必要があると考えられます。

認知症への理解を促進するため有効と思われる広報の方法として、「広報誌(市政だより)」が 79.7%と最も多く、「テレビ CM」(65.0%)、「ソーシャルネットワークサービス(SNS)」(46.2%)が有効とされていることがわかりました。

【健康づくりや介護予防について】

フレイルについて、「内容も言葉も知っている」(33.6%)、「内容も言葉も知らない」(46.2%)となり、認知度が高いとは言えないことがわかりました。

健康づくりやフレイル予防(介護予防)に関する情報を何から得ているか尋ねたところ、

「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(48.3%)、インターネット(Web 記事や SNS など)(30.8%)となりましたが、一方で、「情報を得ていない」が 30.8%という結果でした。より多くの方に情報を届ける工夫が必要であることが分かりました。

健康づくり(フレイル予防を含む)の取り組みについて尋ねたところ、「健康づくり(フレイル予防を含む)に取り組んでいる」が 41.3%となり、取り組みのきっかけは、「できるだけ長く健康に過ごしたいから」(67.8%)、「体力低下などの自覚がきっかけとなって」(57.6%)となりました。一方で、「特に取り組んでいない」(58.0%)となりました。

北九州市が行っているフレイル予防(介護予防)事業に尋ねたところ、「知らない」(51.0%)が過半数を超えており、健康づくりやフレイル予防(介護予防)について今後一層の周知啓発を行っていくことが必要であると考えられます。

【まとめ】

今回のアンケートでは、本市が政令指定都市の中で最も高齢化率が高いことについて 79.0%の方が「知っている」と回答しており、認知症の人と接したことが「ある」と回答した方が 71.3%でした。また、認知症は年齢に関係なく誰でもかかりうる病気であることについても、「知っている」と回答した方が93.0%であり、「若年性認知症」という言葉についても「聞いたことがある」と答えた方が94.4%と非常に高い結果となりました。このことから、認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることも含め、多くの人にとって身近なものとなっていることが伺えます。

また、本市の認知症支援・介護予防に関連する事業に対する市民の方の認知度、関心、意見などを確認することができました。

特に、認知症サポーター「知らない」(72.7%)やフレイル予防(介護予防)事業「知らない」(51.0%)については、知らないと答えた方が多いことから、周知・啓発を進めるための対策を強化する必要があることが分かりました。

地域で暮らす認知症の人や家族の困りごとに対しての認知症サポーターの支援に関する質問では、実際の困りごとなども含め、どのような支援が求められているかについて様々な意見をいただくことができました。

認知症施策については、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が6月に公布され、大きな節目の時期を迎えています。また、今年度は北九州市認知症施策推進計画(北九州市オレンジプラン)の改訂年度であり、現在新たなプランの策定に向け意見聴取等を行っているところです。

今回のアンケート結果については、今後の本市の認知症支援・介護予防の施策の立案のための基礎資料として活用させていただきます。

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指して、引き続き認知症支援・介護予防の事業を推進して参ります。

【市政モニターに関すること】

北九州市広報室広聴課(TEL:582-2527)

【アンケートに関すること】

北九州市保健福祉局 認知症支援・介護予防センター(TEL:522-8765)